

# 新編『生命の實相』の 正統性と優秀性を 説明いたします



令和6年2月1日

谷口雅春著作  
編纂委員会



# 【 目 次 】

	頁
第 1 編 歴史的事実を説明いたします	1
第 2 編 法的真実を説明いたします	9
【証拠 1】 實相眞行義	15
【証拠 2】 實相要約（上）	18
【証拠 3】 實相要約（下）	22
【証拠 4】 行 昭和 14 年 9 月号	25
【証拠 5】 行 昭和 15 年 12 月号	28
【証拠 6】 行 昭和 16 年 1 月号	31
【証拠 7】 生長の家 昭和 19 年 2 月号	34
【証拠 8】 生命の實相 初版本	36
【証拠 9】 生命の實相 第一巻 昭和 10 年 1 月 25 日発行	39
【証拠 10】 生命の實相 （事變版） 地の巻	43
【証拠 11】 生命の實相 （戦時廉価版）第一巻	46
【証拠 12】 谷口雅春先生著『美しき生活』	50
【証拠 13】 生命の實相 （人造羊皮版）地の巻	53
【証拠 14】 生命の實相 （菊装版） 第一巻	56

# 第 1 編 歴史的事実を説明いたします

## 【 質問 1 】

新編『生命の實相』の第一巻は「総説篇」と「光明篇」で一冊になっています。しかし、頭注版など今までに出版されたすべての「版」は、最初の第一巻に「総説篇」があり、その次には必ず「實相篇」があったのだから、このような「全体の最初に総説篇＋實相篇」という編成は、『生命の實相』をお書きになった谷口雅春先生のお考えによって決まっていたものであって、今まで一度も例外がないと言う方がいます。

新編『生命の實相』の第一巻は「総説篇」の次が「光明篇」になっています。そして、「實相篇」は第二巻に入っています。このような編集は谷口雅春先生のお心に背く編集だという方がいます。さらに、人によっては、「新編『生命の實相』の編集は法律に違反している」という意見を出す方もいるようです。法律に関する質問は、あとで伺いますが、新編『生命の實相』の編集態度は谷口雅春先生のお心に背いているという方にどのようにお答えすればよいでしょうか。

## 【 回答 1 】

新編『生命の實相』の編成は、歴史的事実を照らして、谷口雅春先生のお心に断じて背いていません。以下、少し詳しく回答します。

### (1)

まず、結論です。新編『生命の實相』は、決して谷口雅春先生のお心に背く編集を行った『生命の實相』ではありません。新編『生命の實相』は、谷口雅春先生のお心にそった編集によって出来上がった『生命の實相』です。

たしかに今までに出版された多くの『生命の實相』は、最初の第一巻に「総説篇」があり、そのつぎに「實相篇」が連続しているという、「最初に総説篇＋實相篇」の編成になっています。これは谷口雅春先生のお心によって決まった編成です。

しかし、すべての『生命の實相』がその編成になっているわけではありません。少なくとも二つの例外があります。一つ目は、昭和十三年から昭和十五年に出版された『生命の實相』けいたいばんそうしょ（別名、「しゅうちんせいそそう袖珍清楚装」）です。これは「総説篇」のつぎに「眞行篇」があります。そのつぎに「經典篇」があります。肝心の「實相篇」は別の巻のなかに入っているのです。この『生命の

『實相』携帯版叢書は「総説篇＋實相篇」の編成ではありません。「総説篇＋眞行篇＋經典篇＋實相篇」の編成です。(回答注1)

しかも、「総説篇」は全体の最初にあるのではありません。谷口雅春先生はこの「携帯版叢書」のなかに「総説篇」が入っている一冊の書名を「實相眞行義」と名づけて出版されたのですが、その「實相眞行義」のまえには「幸福生活への眞理」(内容は「幸福生活篇」)、「光明の生活法」(内容は「生活篇」)など多くの「篇」がありました。つまり携帯版叢書は「総説篇＋實相篇」の編成でない上に、「総説篇」が全体の最初にあったのでもないのです。(回答注2)

次に二つ目の例外です。昭和十八年から同二十年にかけて出版された『生命の實相』満洲版があります。その満洲版では最初の巻である「乾<sup>けん</sup>の巻」に、神道篇などが収められていました。このなかに「総説篇」は入っていません。その次の「兌<sup>たい</sup>の巻」には聖靈篇などが収められていました。この巻にも「総説篇」が入っていません。実は、「総説篇」は最後の一冊である「坤<sup>こん</sup>の巻」のなかに入れて出版されることになっていたのです。この満洲版は二つ目の例外です。(回答注3)

もっとも実際には、「坤<sup>こん</sup>の巻」は日本敗戦のために出版されることがありませんでした。しかし谷口雅春先生は、その「総説篇」のあとに「實相篇」を続けるお考えを持っていらっしまったのかもしれませんが。もしそうならば、「総説篇＋實相篇」のワンセットが何と最後の巻に入っていたということになります。そうであったにせよ、そうでなかったにせよ、この満洲版は最初の巻に「総説篇」があったのではありません。最後の巻に「総説篇」があったのです。

(2)

さて、それではなぜ谷口雅春先生が「最初に総説篇＋實相篇」の編成でない『生命の實相』を作成なさったのでしょうか。これが重要です。それは全人類を光明化するための谷口雅春先生の熱意による大きな工夫であったのです。まず、谷口雅春先生はご自分で発刊された月刊の『生長の家』誌と、それをまとめた『生命の實相』を全人類に読んでもらって、全人類を光明化したいという強い念願を一生のあいだ持ちつづけていらっしまいました。そのことは新編『生命の實相』第1巻の「編者はしがき」に明記しています。(回答注4)

次に、この世界の物事はすべて型にはめてしまうと物事の自由自在な生命が発揮されずに十分な効果を発揮することができません。そのことを、たとえば谷口雅春先生は『生命の實相』

の「宗教問答篇」のなかで、「われわれの生活が正しき道に乗るといふことも、すべての形の道を切り捨てて悟りの中心に乗ってそこから動き出す時はじめて眞の行きづまらない正しい道の生活ができる」(新編『生命の實相』第三〇巻四一頁。頭注版『生命の實相』第十八巻七六頁)と、書いていらっやいます。

この御文章の前半に、「すべての形の道を切り捨てて…」と書いてあることに御注意ねがいます。谷口雅春先生にとっては、『生命の實相』をなるべく多くの人に読んでもらい、それによってたくさんの人々に生活を光明化してもらうために、「最初に総説篇＋實相篇」という形を切り捨てて、「人・時・処」に応じた自由な編集を行うことは当然のことであったのです。実際に、谷口雅春先生が日本政府(内務省警保局)やGHQ(占領軍総司令部)からの圧力を受けていないころには、『生命の實相』(昭和7年1月1日発行)の「實相篇」の全17章が、そのあとの「版」によっては全13章の『生命の實相』も登場し、全13章の『生命の實相』と、全17章の『生命の實相』が同じときに出版されていました。(回答注5)

このときに変化した4章分はすべて他の「篇」のなかに移動して、決して消えたわけではないのですが、この変化は「實相篇」のある場所が変化したのではなく、内容そのものが変化・変遷をとげたということです。さらに、「全17章の實相篇が入っている版」と、「全13章の實相篇が入っている版」の合計二種類の「版」がいっしょに宣伝され、同時に販売されていました。(回答注6)

このような多くの事実は、『生命の實相』をなるべく多くの人に読んでもらうために、谷口雅春先生が「最初に総説篇＋實相篇」という形を切り捨てて、「人・時・処」に応じた自由な編集と刊行を行われた結果であるのです。

### (3)

新編『生命の實相』も同じことです。今までの多くの人たちの不満(これまでの文字が小さすぎる。注の内容が古すぎる等々)に応え、さらに電車の吊り革をにぎりながら片手で読めるソフトカバー仕様にするなどの工夫を凝らすことによって、谷口雅春先生の強いご念願「人類光明化」を実現するための編集を施したものが新編『生命の實相』です。

しかも新編『生命の實相』は、第1巻の「編者はしがき」に明記しましたように、愛蔵版の内容

を踏襲した『生命の實相』です。決して谷口雅春先生の御文章を勝手に削除したり追加したりしているのではありません。新編『生命の實相』は愛蔵版の御文章の場所を多少移動して、読者に読みやすくする編集を行った『生命の實相』です。新編『生命の實相』は谷口雅春先生のお心を実現する『生命の實相』であって、谷口雅春先生のお心に背く『生命の實相』ではありません。

.....

### 【回答注1】

昭和十三年十二月から昭和十五年七月に出版された『生命の實相』<sup>けいたいばんそつしよ</sup>携帯版叢書(別名、「袖珍<sup>しゆうちん</sup>清楚装」)シリーズのなかの、

『實相眞行義—鍊心的修養の眞髓—』(昭和14年5月15日発行)

<https://dl.ndl.go.jp/pid/1111872>

に「総説篇」があるが、その次の「篇」は「實相篇」ではない。「総説篇」の次にある「篇」は「眞行篇」さらに「経典篇」。(証拠1) なお、上記の URL(ホームページアドレス)は国立国会図書館デジタルコレクション(以下同じ)。

肝心の「實相篇」は別の一冊、

『實相要約(上)(實相篇)』(昭和14年6月18日発行)

<https://dl.ndl.go.jp/pid/1120975>

のなかに「實相篇」として全9章が含まれている(証拠2)。さらに、

『實相要約(下)(實相篇)』(昭和14年7月20日発行)

<https://dl.ndl.go.jp/pid/1111016>

のなかに「實相篇」全8章および「萬教歸一篇」含まれている。(証拠3)

よって「総説篇」のあとに「實相篇」が続いているのではない。また、『實相要約』の上下に収録された「實相篇」の章数は合計で17章。この章数は現在の頭注版の「實相篇」が合計13章であることと比べると多量の章数である。しかし、これらの事実は谷口雅春先生の積極的な意思によって決定された。以上の編集に関して、当時の日本政府(内務省警保局)が谷口雅春先生に圧力を加えた事実を示す記録はない。

## 【回答注2】

これは「携帯版叢書」の出版史に関する少し詳細な説明(1)～(3)になる。

(1)

昭和14年9月1日発行の『行』九月号

<https://dl.ndl.go.jp/pid/12893368>

の広告頁(裏表紙の裏面)に、

「二巻完成」と銘打って「實相要約 上巻下巻」(内容は「實相篇」と「萬教歸一篇」)の広告が縦書きで書いてある。

その左に「實相眞行義」(内容は「総説篇」ほか)

「光明の生活法」(内容は「生活篇」)

の書名が縦書きで順番に並んでいる。この広告頁は、「實相要約 上巻下巻」が出版されるまえに既に「實相眞行義」と「光明の生活法」が出版(あるいは広告)されていたことを示している。

(証拠4)

(2)

その一年三ヵ月後の昭和15年12月1日発行の『行』十二月号

<https://dl.ndl.go.jp/pid/2218962>

の広告頁(奥付の次の頁)には縦書きで右から左へ、

「携帯版叢書 全二十冊揃ふ」と銘打って、

新刊「幸福生活への眞理」(内容は「幸福生活篇」ほか)

「日本の世界的使命」(内容は「光明篇」ほか)

「實相要約(上巻)」(内容は「實相篇」)

「實相要約(下巻)」(内容は「實相篇」と「萬教歸一篇」)

「實相眞行義」

「光明の生活法」

の順で並んでいる。(証拠5)

この昭和15年の十二月号までは、前号の広告をそのまま使って、新刊本の書名を一番右に立てたと思われるが、必ず「實相要約+實相眞行義」のワンセットの前には、このように「日本の世界的使命」があり、後には「光明の生活法」があった。これが次の号では前後が逆転する。

(3)

次の号である昭和16年の一月号

<https://dl.ndl.go.jp/pid/2218963>

の広告では、「實相要約+實相眞行義」のワンセットの前に「光明の生活法」があり、後に「日本の世界的使命」がある。先月号とくらべて「光明の生活法」と「日本の世界的使命」の順番がワンセットを挟んで逆転した。この一月号において谷口雅春先生が単なる広告や出版の順番でなく、ご自身の積極的な価値判断によって全20冊の順番を変更なされたことは明瞭である。

その昭和16年の一月号の広告は具体的に、

「1 幸福生活への眞理」(内容は「幸福生活篇」ほか)

「9 光明の生活法」(内容は「生活篇」)

「16 實相眞行義」(内容は「総説篇」ほか)

「17 實相要約(上)」(内容は「實相篇」前半)

「18 實相要約(下)」(内容は「實相篇」後半ほか)

「20 日本の世界的使命」(内容は「光明篇」ほか)

である。(証拠6)

この番号は縦書きの書名が右から左へ並んでいる順番にしたがって付記したものであるが、この順番は同年の七月号まで7カ月のあいだ変わっていない。さらにその七月号以降の『行』の広告頁には「携帯版叢書」という文字は書いてあるが、一冊ごとの書名が書いてない。よって『生命の實相』携帯版叢書は、谷口雅春先生の積極的な意思によって、「シリーズ全体の後半に総説篇+實相篇」の編成になっていたのである。

### 【回答注3】

『生長の家』誌(昭和19年2月号)の裏表紙にある、『生命の實相』満洲版(全八巻)の広告によると、「総説篇」は最後の巻である「坤の巻」のなかに入って出版される予定であった(証拠7)。なお、八卦の順番は「乾, 兌, 離, 震, 巽, 坎, 艮, 坤」だから、「坤の巻」は最後の巻である。

### 【回答注4】

谷口雅春先生ご自身の深い願いは、『新編・生命の實相』第1巻の「編者はしがき」が引用しているように『生長の家』誌「創刊号」(昭和五年三月一日)の次のお言葉に表されている(ご発表時には正漢字と歴史的かなづかいを御使用)。

如何にせば境遇の桎梏から抜け出し得るか、如何にせば運命を支配し得るか、如何にせば一切の病気を克服し得るか、また、如何にせば貧困の眞因を絶滅し得るか



か、如何にせば家庭苦の悩みより脱し得るか……等々。

今人類の悩みは多い。人類は阿鼻地獄のように苦しみ躓がきあせっている。あらゆる苦難を癒やす救いと薬を求めている。しかし彼らは悩みに眼がくらんでいはいはしないか。方向を過っあやまていはいはしないか。探しても見出されない方向に救いを求めていはいはしないか。自分は今彼らの行手を照す火を有って立つ。

#### 【回答注5】

昭和7年1月1日に発行された最初の『生命の實相』(非売品)

<https://dl.ndl.go.jp/pid/1032541>

の「實相篇」は全17章(証拠8)。

昭和10年1月25日に発行されて、「生長の家聖典全集」と銘打たれた『生命の實相』第一巻

<https://dl.ndl.go.jp/pid/1255887>

の「實相篇」は全13章。(証拠9)

昭和13年3月20日に発行された『生命の實相』(事變版)の「地の巻」

<https://dl.ndl.go.jp/pid/1109889>

の「實相篇」は全17章。(証拠10)

昭和14年9月10日に発行された『生命の實相』(戦時廉価版)の第一巻

<https://dl.ndl.go.jp/pid/1085608>

の「實相篇」は全13章。(証拠11)

#### 【回答注6】

谷口雅春先生著『美しき生活』(昭和15年12月20日発行)

<https://dl.ndl.go.jp/pid/1027527>

の広告頁に4つの「版」の広告がある(証拠12)。そのうち、

『人造羊皮版・全9巻』(昭和14年11月20日発行)の「地の巻」

<https://dl.ndl.go.jp/pid/1032156>

の「實相篇」が全17章。(証拠13)

『戦時廉価版・全15巻』(昭和14年9月10日発行)の第一巻

<https://dl.ndl.go.jp/pid/1085608>

の「實相篇」が全13章。(証拠11)

『菊装版・全12巻』(昭和14年5月20日発行)の第一巻

<https://dl.ndl.go.jp/pid/1055676>

の「實相篇」が全17章。(証拠14)

#### 【回答補注】

インターネット上に流布されている風説のなかには、谷口雅春先生がお書きになった『新版真理』別冊に、「最初に総説篇＋實相篇』の編成を変えてはいけない」と書いてあるかのような風説が流布されているが、それは誤解にすぎない。たしかに同書は、総説篇と實相篇は「一番中心になっておる真理が書かれている」(百十三頁)から大切な篇だと教えていらっしゃる。しかし、「最初に総説篇＋實相篇』の編成を変えるな」と命令されているのではない。そのようなお言葉はまったく存在しない。

また、やはりインターネット上に流布されている風説のなかには、徳久克己先生著『心の持ち方一つ』下巻22頁に、「最初に総説篇＋實相篇』の編成を変えてはいけない」と書いてあるかのような風説もあるが、これも誤解にすぎない。このご本も総説篇と實相篇の大切さを説明しているだけである。「最初に総説篇＋實相篇』の編成を変えるな」と述べているのではない。もしもこれら二冊の本が、「最初に総説篇＋實相篇』の編成を変えることを禁じているのならば、携帯版叢書や満洲篇を作成なさった谷口雅春先生は、谷口雅春先生や徳久克己先生の禁を破っていた…ということになってしまう。

## 第 2 編 法的真実を説明いたします

### 【 質問 2 】

新編『生命の實相』は、著作権法の規定に抵触する違法な出版物なのではないかと質問される方があります。その方は、そもそも著作権法は著作者(本を書いた人)の権利を守るために多くの権利を保護している。その権利のなかに「著作者人格権」があるのだ。さらにそのなかに「同一性保持権」がある。「同一性保持権」とは、簡単にいうと、「本を書いた人は、自分が生きているときだけでなく、自分が死んだあとでも、自分の本の文章や章などを変更されない権利を持っている」と言われます。そして、「本を書いた人が亡くなったあとでも、その本の文章や章などを勝手に変更してはいけない」と言われます。

さらに、「著作権法」の第六〇条、「著作物を公衆に提供し、又は提示する者は、その著作物の著作者が存しなくなった後においても、著作者が存しているとしたならばその著作者人格権の侵害となるべき行為をしてはならない。」とあるのだ。この規定は、たとえ著作権者であっても勝手にその本の文章や章や篇を変更してはならない…と命令しているのだと言われます。

その方は、新編『生命の實相』は、長らく変わらなかった「第一巻に総説篇＋實相篇」の編成を勝手に変更したのだ。これは著作権法第六〇条の命令に反する違法な編集なのではないか、と言われます。どのようにお答えしたらよいでしょうか。

### 【 回答 2 】

これも詳しく回答しますが、まず結論です。新編『生命の實相』が「総説篇」の次に「光明篇」を置いたことは、著作者である谷口雅春先生の意味や感情を害しないことは、前述しましたとおり歴史的事実から明白です。従って、著作権法第 60 条ただし書きにより法的正当性があります。つまり新編『生命の實相』の編集は、歴史的に見ても法律に照らしてみても全く問題のない編集なのです。以下にその理由を詳しく説明します。

#### (1)

まず、谷口雅春先生から『生命の實相』の著作権の全部を完全に譲られて著作権者になった人(法人)は「公益財団法人生長の家社会事業団」です。これは知的財産高等裁判所の判決で確認され、最高裁判所の決定によって確定されました(回答注1)。その著作権には、素材に係る

著作権とともに、編集著作物に係る権利(編集著作権)も含まれています。そのことも知的財産高等裁判所の判決により確認され、最高裁の決定によって確定されました(回答注2)。

(2)

その一方で、質問者がおっしゃるように著作権法の第六〇条が、「谷口雅春先生が亡くなったあとは、著作物を公衆に提供し、又は提示する者は、勝手に『生命の實相』の内容を変更してはならない」との意味の規定をしています(回答注3)。それだけを見ると、たとえ著作権者の生長の家社会事業団であっても『生命の實相』の一言一句を変更することは全くできないようです。しかし第六〇条には、この文言のすぐあとに次のような「ただし書き(例外規定)」が付いています。これは重要な文言なので下線を付して引用します。

ただし、その行為の性質及び程度、社会的事情の変動その他によりその行為が当該著作者の意を書しないと認められる場合は、この限りでない。

この文言の意味は、簡単にいうと、「生長の家社会事業団が『生命の實相』の文章や章や篇のやむを得ない変更を行っても、それが亡くなった谷口雅春先生の意を書しないと認められる場合は問題としない」ということであり、法的解釈としても、第二十条第二項第四号よりも強い制限規定と解されます(回答注4)。

もともと「著作権法」は著作者の権利を守るとともに、「文化の発展に寄与すること」(第一条)も大きな目的として制定されました。だから、著作者が亡くなったあとに、その著作者の(神界・霊界において)意を書さないとお思いになるであろう変更を認める「例外規定」を加えて、それによってその著作物がそれまで以上に文化の発展に寄与する道を開いているのです。

そこで、新編『生命の實相』に見られる「章や篇の編成の変更」が、この例外規定に該当する(あてはまる)のか、それとも該当しない(あてはまらない)のか…これが問題となります。もし『新編・生命の實相』の変更が第六〇条の例外規定に該当するのならば、新編『生命の實相』は違法な出版物でないこととなります。それどころか、新しい文化貢献への工夫として称讃されることになるかもしれません。しかしその反対に、もし例外規定に該当しないのならば、新編『生命の實相』は違法な出版物だという非難を受けることになるでしょう。

(3)

すでに上の【回答1】で確認したように、谷口雅春先生は、『生命の實相』を全人類に読んでもらって全人類を光明化したい」という念願をはたすために、『生命の實相』携帯版叢書や『生命の實相』滿洲版で章や篇などの大規模な変更を行っていらっしゃいました。新編『生命の實相』も谷口雅春先生の念願を実現するために章や篇の場所を移動しました。しかしこの移動は、滿洲版の「實相篇」が全巻最後の一冊に移動したような大規模な移動ではなく、きわめて小規模な移動にすぎません。

しかも、戦前の『生命の實相』には、「實相篇」の内容の変更がありました。これは「場所の変更」ではありません。「實相篇」の内容そのものが変わったのです。たとえば上記のように、最初の『生命の實相』(昭和7年1月1日発行)の「實相篇」は全17章でした。しかし昭和10年1月25日に発行された『生命の實相』のように「實相篇」が全13章の『生命の實相』もありました。さらに昭和13年3月20日発行の『生命の實相』(事變版)は全17章でした。そのあと昭和14年9月10日に発行された『生命の實相』(戦時廉価版)で全13章に変わって、現在の愛蔵版や頭注版は全13章で一貫しています。このような変更は「實相篇」の「内容の変更」であって、「場所の移動」よりも遥かに大きな変更です。それに対して、新編『生命の實相』の愛蔵版からの変更は「小規模な場所の移動」であって、決して「内容の変更」ではありません。

(4)

以上の事実を著作権法第六〇条の「ただし書き(例外規定)」に当てはめると、次のように言うことができます。『新編・生命の實相』の、愛蔵版からの変更は、

「その行為の性質(読みやすくするためより大きな活字(フォント)を使用するため、全65巻となること等によるやむを得ない、實相篇の場所の移動)、及び程度(實相篇の内容に変更がなく、携帯版叢書や滿洲版よりも小規模な場所の移動)、社会的事情の変動(注の内容が現代に合わなくなったなどの変動)、その他(常用漢字及び現代仮名遣いを使用して読みやすくしてほしいなどの希望)により、当該著作者(谷口雅春先生)の意を書きないと認められる

のであると。

したがって、新編『生命の實相』が最初の第一巻に「総説篇」と「光明篇」を収録したことは、著作権者(生長の家社会事業団)の「編集著作権」に基づく十分に合法的な小規模変更にはすぎません。もし谷口雅春先生が新編『生命の實相』を御覧になったら、「君たち。何をやっているのかね。もっと大きな変更を加えて、もっともっと多くの人たちに読んでもらえる『生命の實相』にしないと駄目じゃないか」と、お叱りになるかもしれないのです。ともあれ、新編『生命の實相』は決して違法な出版物なのではありません。合法で称讃されるべき工夫をこらした『生命の實相』なのです。

…さて、ついでに。ここで説明の仕方が変わるようですが、平成 21 年から今まで『生命の實相』の著作権の帰属等について激しい訴訟をしてきた谷口雅宣総裁の現教団や日本教文社らが、「新編『生命の實相』第 1 巻は著作者の死後における人格的利益を侵害している」などと訴状や裁判所に提出した準備書面に記載したことは、一度もありませんでしたし、公式ホームページ等でもそのような主張は全くしていません。それはなぜなのでしょう。それは、現教団の代理人弁護士に所属する法律事務所は、日本有数の知的財産専門の著名な法律事務所ですが、そのような法律専門家が見ても新編『生命の實相』が谷口雅春先生の死後における人格的利益を侵害していないことが明らかであるからなのです。

.....

#### 【回答注1】

知的財産高等裁判所の平成24年1月31日判決言い渡し

[https://www.ip.courts.go.jp/app/files/hanrei\\_jp/966/081966\\_hanrei.pdf](https://www.ip.courts.go.jp/app/files/hanrei_jp/966/081966_hanrei.pdf)

この知的財産高等裁判所判決は平成25年5月27日、最高裁判所の上告棄却決定により確定。

この件に関する最も詳細な報告は、当事者(生長の家社会事業団)の報告であるが、

[http://www.kamino92.or.jp/img/info03\\_jigyodan2023.pdf](http://www.kamino92.or.jp/img/info03_jigyodan2023.pdf)

なお、もう一方の当事者(谷口雅宣総裁の現教団)の詳細な報告は現時点でも存在しない。

#### 【回答注2】

『生命の實相』の編集著作権が「生長の家社会事業団」にあることを認めた東京地方裁判所

の平成26年2月7日判決言い渡し

[https://www.courts.go.jp/app/files/hanrei\\_jp/969/083969\\_hanrei.pdf](https://www.courts.go.jp/app/files/hanrei_jp/969/083969_hanrei.pdf)

同権利が同法人にあることを確認した知的財産高等裁判所の平成26年10月15日判決言い渡し

[https://www.ip.courts.go.jp/app/files/hanrei\\_jp/573/084573\\_hanrei.pdf](https://www.ip.courts.go.jp/app/files/hanrei_jp/573/084573_hanrei.pdf)

この知的財産高等裁判所判決は平成28年3月15日、最高裁判所の上告棄却決定により確定。

この件に関する最も詳細な報告は、当事者(生長の家社会事業団)の報告であるが、

[http://www.kamino92.or.jp/img/info03\\_jigyodan2023.pdf](http://www.kamino92.or.jp/img/info03_jigyodan2023.pdf)

なお、もう一方の当事者(谷口雅宣総裁の現教団)の詳細な報告は現在の時点でも存在しない。

### 【回答注3】

「著作権法」の第二〇条も第六〇条と同じように、著作者以外の者が勝手に文章や章などを変更することを禁じています。しかし第二〇条は「著作者の生存」を前提とした条文です。それに対して、『新編・生命の實相』は谷口雅春先生がお亡くなりになったあとに編集されたので、当然、第六〇条が適用されます。

### 【回答注4】

「著作権法」の第二〇条にも、第六〇条と同じような「例外規定」があります。それは第二〇条の第二項の第四号、「著作物の性質並びにその利用の目的及び態様に照らしやむを得ないと認められる改変」です。この内容は、本件に照らして言うと、たとえば谷口雅春先生が御老齢で入院なさって、しかも手や指が動かないときに、雅春先生の御子孫が雅春先生から真剣に頼まれて『生命の實相』の文章や章や篇を変更したうえで出版なさった…このような場合は「止むを得ない」と認められるから問題にしないということです。

しかし、この例外規定は著作者である谷口雅春先生のご生存を前提としています。だから、谷口雅春先生が御昇天になられたあとに編集された新編『生命の實相』には適用されません。適用される規定はあくまでも第六〇条です。

### 【回答補注】

谷口雅春先生の著作者の死後における人格的利益にこだわる人の中には、先生の御子孫が「著作者の死後における人格的利益の侵害」を理由にして「生長の家社会事業団」あるいは「光明思想社」を裁判に訴えることができるように考えている人もいらっしゃるようです。しかしそれは誤解です。

「著作者人格権(もちろん「同一性保持権」を含む)」は、「著作者財産権」と違って一身専属の権利です(第五九条)。よって著作者のご昇天とともに消滅します。相続することもできません。これを詳しくいうと、まず民事としては、たとえ「著作者の子孫」であっても、「著作者の死後における人格的利益の侵害」を理由に「損害賠償請求」を行うこともできません。「著作者の子孫」には一定の順位(配偶者→子→孫)で、回復措置請求権(元にもどしてくださいと請求する権利)があるだけです。しかし、客観的にそのような違法事由がないのにこの訴訟を起せば相手方から「不法行為」として損害賠償を請求されることにもなります。

次に、刑事としては、「著作者の死後における人格的利益の侵害」は非親告罪ですが、処罰すべき事由がないのに告発したら逆に告発人が誣告罪(虚偽告訴等の罪)で処罰されることになりかねません。(刑法第 172 条 人に刑事又は懲戒の処分を受けさせる目的で、虚偽の告訴、告発その他の申告をした者は、3 月以上 10 年以下の拘禁刑に処する。)

さらに「不法行為」として被告発人から損害賠償を請求されることにもなりえます。「著作者の死後における人格的利益」については誤解している人も多いようですので、十分に気を付けたいものです。



特265  
891



谷日雅春著

# 實相眞行義

— 鍊心的修養の眞髓 —

東京 光明思想普及會 刊行



## 「生長の家」家族の祈願及修養

- 一、「生長の家」の誼友及び讀者はすべて「生長の家」の家族として世の光となり此の祈願に従ひて、生活し修養し、各々地上天國建設の礎石たらん事を期す。
  - 二、吾らは凡ゆる宗教が大生命より發せる救ひの放射光線なることを信じ、他宗をせしらず、他人の尊崇の對象たるものに敬禮せんことを期す。
  - 三、吾らは自己を神の子なりと信じ、常にけだかく人生の道を歩み内なる魂の誇を傷けざらん事を期す。
  - 四、吾らは野を、野の花を、み空を、星を、蒼海を、大地を、火を、水を、一切の大自然と生物とを觀るにその背後に神の生命の圓相を觀、その生命を敬し、禮し、愛し、苟も浪費せざらんことを期す。
  - 五、吾らは「心の清き者は神を見る事を得」との眞理を信じ心を飽く此清く尙く純に素直に保たん事を期す。
  - 六、吾らは「類は類を相斥」の心の法則を知るを以て苟も自己の欲せざる事を心に思はざらんことを期す。
  - 七、吾らは自他の惡を云爲する時間あらば、神を想ひ、完全を想ひ、自己の新生と生長とに利用せんことを期す。
  - 八、吾らは常に無限力と情に生くることを信じ、神に背く事のほか、何ものをも恐れず、取越し苦勞をせざらんことを期す。
  - 九、吾らはたとひ覆くことありとも直面せず、その眞
- 
- 十、吾らは出來る限り悔める隣人を扶けてその暗黒なる生活を光明に轉向せしめんことを期す。
  - 十一、吾らは自己の好む所を他に施し、自己の好まざる所を他に轉讓せざらんことを期す。
  - 十二、吾らはすべての人類をして健康と幸福と安住との生活を得しめんがため、この光明思想「生長の家」を全世界にひろめ全人類に眞理を傳へん事を期す。
  - 十三、吾らは生命は永遠なるを信じ、毎朝、皇靈を禮拜し奉り、次で一家の祖先の靈魂を祀れる祭壇又は佛壇の前に坐してその冥福と守護を祈願し、且つ自己の生命も永遠なれば常に若く愉快に青年の如く生きんことを期す。
  - 十四、吾らは實在の眞相のみを見、移り變る假りの相にとらはれず、常に光風霽月の如き生活を營みて情を動ぜざらんことを期す。
  - 十五、吾らは今日一日を出來る限り強く、明るく、正しく充分生き抜き生き盡して悔いなき生活を送らん事を期す。
  - 十六、吾らは常に善と愛と智慧と光明とが自己の實相なることを信じ、常につとめて善に還り、愛を行ひ眞理の書を讀み、全人格の寮園氣と心の習慣とを神の如く完全なるものたらしめんことを期す。

## 實相眞行義 目次

總說篇	七つの光明宣言	一
眞行篇	光明眞理の祈願	四
經典篇	聖經「天使の言葉」講義	一六七
附錄	「甘露の法雨」	二六九

昭和十四年五月十日印刷  
昭和十四年五月十五日發行

實相眞行巻  
——鍊心的修養の眞髓——  
定價九十錢(送料六錢)

著作者 谷 口 雅 春

發行者 株式會社 光明思想普及會  
東京市赤坂區榎町五番地

代表 服 部 仁 三 郎

印刷所 大文堂合名會社  
東京市小石川區白山御前町十八

東京市赤坂區榎町五番地

發行所 株式會社 光明思想普及會  
大坂市東區東船場一丁目九番

版 權 登 録

本書は有名な『生命の實相』の一部です。  
此の一篇を

に贈る

皇紀 年

寄贈者



谷口雅春著

實相要約

(附)「甘露の法雨」

東京 光明思想普及會 發行



明 276  
18

# 『實相要約』(上) 目次

第一章	近代科學の空即是色の展開	一
第二章	『生長の家』の健康學	一九
第三章	あらゆる人生苦の解決と實例	三七
第四章	心の世界に於ける運命の形成	七三
第五章	生きた事實を語る	一〇五
第六章	愛と眞理によつて更生せよ	一二九
第七章	『生長の家』の超生理學	一五四
第八章	『生長の家』の超藥物學	一八〇
第九章	無礙自在の『生命の本性』を發揮せよ	二二七
(附)	『甘露の法雨』	一六五

# 實相要約 (上)

昭和十四年六月十五日印刷  
昭和十四年六月十八日發行

實相要約(上)

定價九十錢(送料六錢)

著者 谷口雅春

發行者 株式會社 光明思想普及會  
代表 服部仁三郎

印刷所 東京市小石川區白山御殿町十八  
大文堂合名會社

發行所 東京市赤坂區檜町五番地  
株式會社 光明思想普及會

(振替東京五五五一九番)

版權登錄

Made in Nippon.

本書は有名な『生命の實相』の一部です。

此の一篇を

に贈る

皇紀

年

寄贈者

待264  
802



谷口雅春著

實相要約

附『甘露の法雨』

東京 光明思想普及會 發行





## 「實相要約」(下) 目次

第一章	『生長の家』の神人論	.....	一
第二章	讀んで魂の歡ぶ話	.....	二〇
第三章	神への道しるべ	.....	四三
第四章	經濟問題の解決	.....	七二
第五章	實生活に應用する自己暗示法	.....	一〇五
第六章	心の根本的調律法	.....	一三六
第七章	『神想觀』の實修法	.....	一五九
第八章	生き通しの生命	.....	一六二
第九章	『生長の家』より觀たる法華經	.....	一九三
(附)	『甘露の法雨』	.....	二五五

## 實相要約 (下)

昭和十四年七月十五日印刷  
昭和十四年七月二十日發行

實相要約(下)  
定價九十錢(送料六錢)

版 權 登 録

著 者 谷 口 雅 春

發行者 株式會社 光明思想普及會  
東京市赤坂區輪町五番地

印刷所 大文堂合名會社  
東京市小石川區白山御殿町十八

發行所 株式會社 光明思想普及會  
東京市赤坂區輪町五番地  
(振替東京五五五一九番)

Made in Japan

本書は有名な「生命の實相」の一部です。  
此の一篇を

皇紀 年

寄贈者

に贈る



1202200505865

誌雜八回春雅口台

Z9-176

號月九



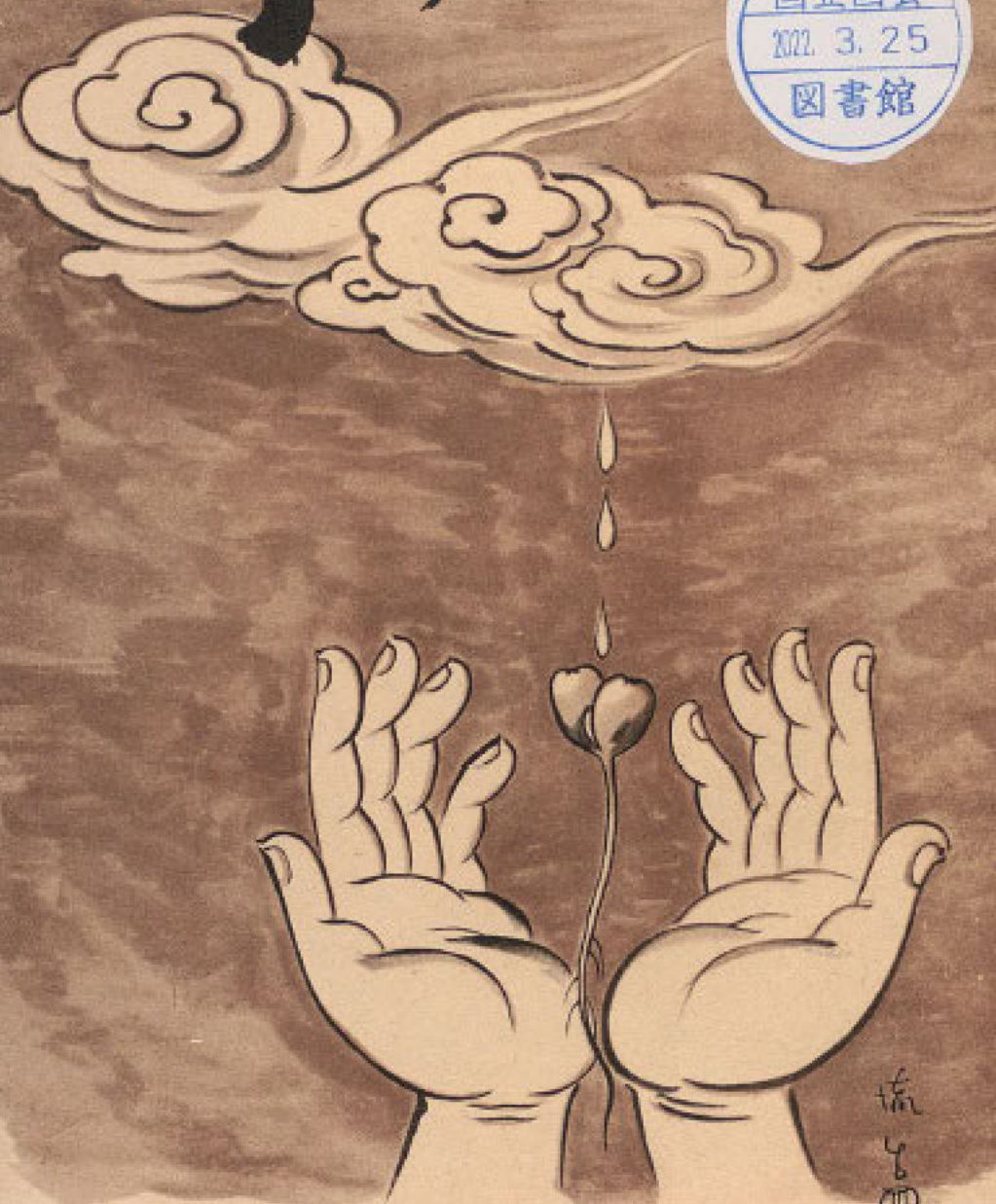
行

心々

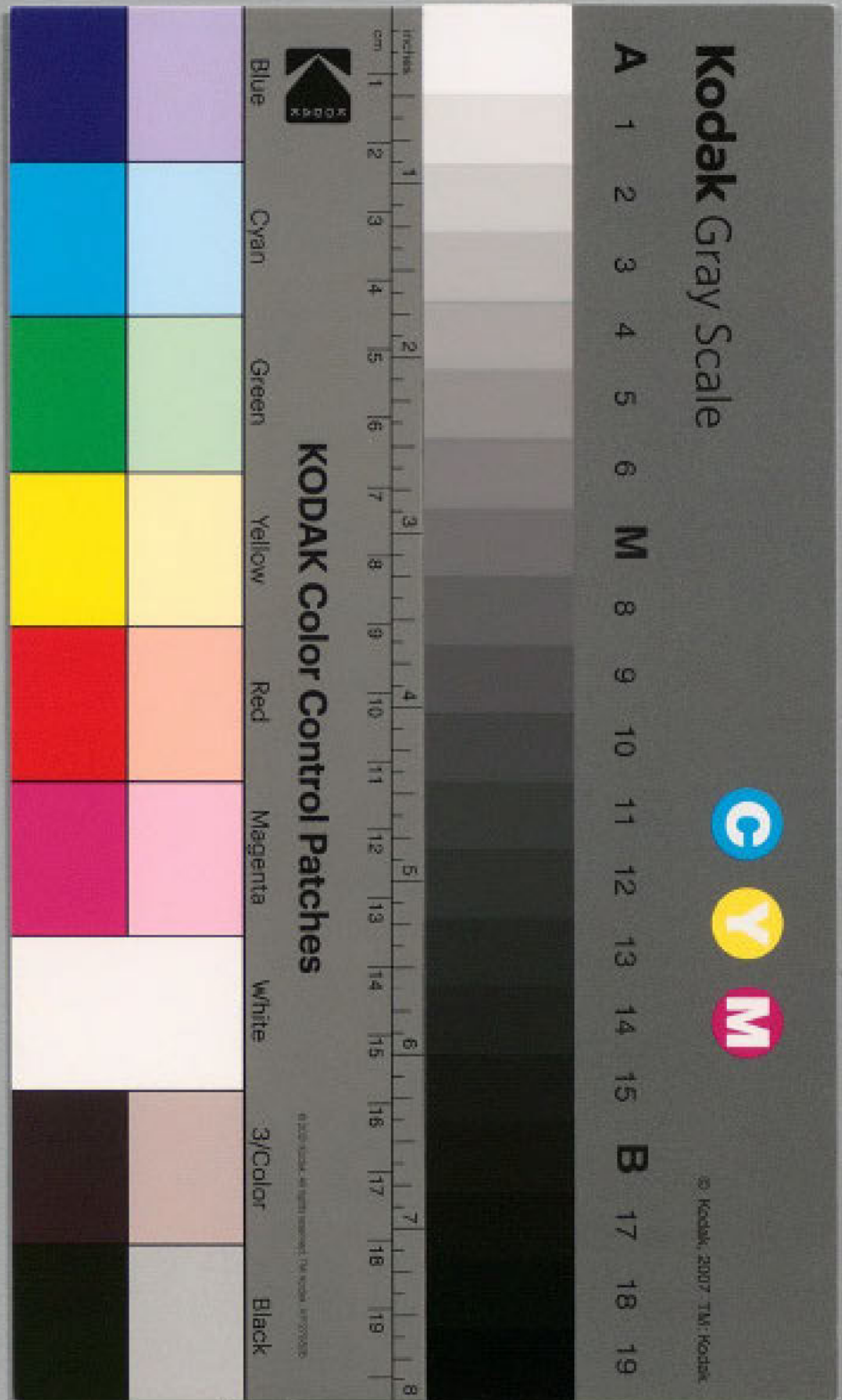
昭和八年十一月六日第三種郵便物認可(毎月一回一日発行)  
昭和十四年八月十五日印刷納本 昭和十四年九月一日發行

行 九月號 (このち改題第七號通巻第七十四號)

昭和十四年九月一日發行



橋本



KODAK Color Control Patches

Kodak Gray Scale

C Y M

© Kodak 2017 TM: Kodak

編輯後記

○「行」も第七巻でございます。行の準備の準備を始め、夫々光明化準備の準備の色を染み込めて、まことに初秋の机上に備る好例の一部と信じます。本誌がこれ許に達するに備えて「生命の實用」集、版書本七巻「ひかりの道」が刊行の予定でございます。○口頭の生命論、生命と生命、地下八巻の準備に、野々村玉の思想「智慧の言葉」を併せて刊行の予定でございます。念々歩々たゞ正明に、たゞ偉大に生き抜かん吾らの無量の血肉の書として本誌と共に心願下さい。○既に資本主義の動きを明瞭して、日々誌と敵かに、有難きのみ今の日本でござります。国内一切の迷妄を断じ去り、日本が日本に、悉くは初めて日本が華岡本邦の日本の位置に還る。三に一個一心、原野を夏實し、幸り新東洋建設の一途を直進する。此の旨を決し、敢てまた果敢たる日本の今の姿、まことに否

ら本國の「日」々々でございます。歐州外交は斯くて確立してあるでございます。(O集) ○病める近世ヨーロッパ文明は、今や滅びの支度に忙しい。斯くて世界に會議は唯り、「人工の天國」と「感の病」の妖しき光の放りこそ、歴史の必然は、復讐をして一踏張りの義取を遂げしめる。あし四歐文明の没落、物質文明の自滅、國運は四にゆく。ニイチエが狂つた頃に、「この人を見よ」と叫んだのも皮肉な現象ではある。遂に世紀の轉換が来た。偉大なる價値の時期、唯物主義より生命主義へ。私共は今こそ物質主義的近代社會の否定を通じて人間の「神性」の絕對性、無畏性とを招叫しなければならぬ。國運精神地圖のスコロガンも、この人間の「神性」の自覺と信仰とに依つてのみ初めてその意義と價値とを持つ。茲に「生命の實用」の積極的性質が果たはり、世界的使命が存する。吾等は右口頭の眞理に於て、雜誌の編輯を通じて、國民エネルギーの一大振興をも企圖するものである。切に御努力を此誌を。——(W生)

昭和十四年八月十五日印刷納本 昭和十四年九月一日發行	東京市豊島區長崎六丁目 二〇ノ五	編輯人 服部仁三郎 發行人 東京市小石川區藤町五六 印刷人 奈良直一	東京市小石川區藤町五六 印刷所 株式會社實業印刷所	東京市赤坂區榑町五 發行所 株式會社光明思想普及會 電話 赤坂(48) 一三三三 一三三三 一三三三
-------------------------------	---------------------	--	------------------------------	--

選 著 名 刊 新 最 春 雅 口 谷

携 帶 版 叢 書 甘 露 の 法 雨 付

本書はスマートな無地洋装の携帯本なので、常に所持して一寸の時間を利用して光明輝く心で人生百事を處理して行く力を願ふ人々に喜ばれてゐる。特に各巻末には「甘露の法雨」が併録されてゐるので、一層携帯して護心の力となる。「甘露の法雨講義」には簡潔な講義が附されてゐる。實相要約は上下二巻をなすものであるが、廣大なる同書を中心部を一括せるもの。その他各書を交互に携帯し常住心を磨くに赴適書である。

(6巻) 錢十九 各・釘裝地無・裁半菊

實相要約 上巻	實相要約 下巻	實相眞行義	甘露の法雨講義	光明の生活法	百事如意
---------	---------	-------	---------	--------	------

讀 本 版 叢 書

(14巻) 錢卅圓 各 紙表込折 刊新最

人を作る教育	人生讀本	向上讀本	女性讀本
--------	------	------	------

萬人が幸福となる本が出た。老も若きも男も、女も、文字多き人々も、亦少き人々も、「あゝよかつた、うれしい。私のお神様だ」と讚嘆を久しくする本が出た。人生の行路に倦める者、病の床に臥す人、一切の勞苦に涙する者よ、更に眞に子供を、人を教育する道を知りたい人々よ、來れ、先づ健康になる。働きを増す。疲れない。毎日が楽しい。出世する。美しい日本人となる。等々本當の教育の道が顯現する。平易な「生命の實相」なる右書を得よ。

各 種 光 明 專 門 書

處世の勝利者たらしめる力の源泉を與へる生命の書、即ち立身出世の秘法も、難病征服の道も、貧苦を絶する道も、一家和樂の秘訣も、永遠に生き延ぶ無限生命の實人生を知る方法も、日々の光明生活法も左の専門書に具備す。希望の書より讀まれよ。

光明の健康法	人生必ず勝つ	母・妻・娘の本	日輪めぐる	人間死んでも死なぬ	續人間死んでも死なぬ
130 送14	150 送14	150 送14	150 送14	130 送14	130 送14

圖書目錄進呈

東京市赤坂區 榑町五番地

光明思想普及會 發行

電話 赤坂 五五五 一三三三

"GYŌ" Published monthly  
by the Kōmyōsō, Hukyūka, Tōkyō, Japan.

行

九月號

(この号は改題第七號通巻第七十四號) 昭和八年十一月六日第二種郵便物認可 (毎月一回一日發行) 昭和十四年八月十五日印刷納本 昭和十四年九月一日發行



定價 貳拾圓

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM Kodak



谷口雅春個人雜誌

ざいしゆ

行



12月號

○十一月二十二日生辰の故郷十周年記念日を祝して谷口先生著「人生は心で支配せよ」が出版されます。本書は谷口先生の理想と生活とが進一步を果して、生長の家運動の一つの「縁」を形成した書であります。生長の家の理想運動の根源を知らうとされる方に「読書如意」と共に読むことの出来ない書でございます。是非御必読願ひます。四六判、四八八頁、二冊二十銭送料十四銭。

○この他谷口先生著「禁煙禁煙禁煙」と題する、四六判一二四頁、三十銭の新刊が出版されます。酒、煙草を止めたいと思ひながら止められない方、酒、煙草を止めさしたと希望の方に好評の書です。禁煙禁煙に到る原理を幾多の資料を以て説かれた本書は、必ずや偉大な効果を示すものと信じ、敢て昔々様に御覧め致す次第でございます。

○日本新書館版七八銭本が又々出版されました。「人間死んでも死なぬ」「人生必ず勝つ」の二書です。同版新刊「世世血の書」「慕進日本」の本の心と力」と共に是非御必読願ひます。

○既に御承知のことと存じますが、今度東京同知会の一要運動として大改訂版生長の家の青年會なるものが誕生し、主として青年學生層に谷口先生の御思想を普及徹底し、以て大改訂版生長の家の御思想の推進力とらんとする全国的な青年會の運動であります。昔々様の御子弟の御入會を心からお待ち致して想ひます。正會員は男子十五才より三十五才迄の方にして一年二圓四十銭、半年一圓二十銭の會費を収めたる方です。編輯の趣は、本會の発行に賛同し、本會の運動に積極的援助を惜しまざる男子の方を賛助會員とし、會費一年三圓以上御納入の方と致して思ひます。入會御希望の方方は、住所、氏名、年齢、學校名、又は御希望の御活動先を明記され、大改訂版生長の家の青年會總務部宛「御申込」の紙に御記入の上、お振替掛引等は御申込と同様に保の者から御報告申し上げます。

○改訂版生長の家の東京同知会刊十月十五日發行の谷口先生の御思想の御覧下さい。(濃墨)

發行所	定價	注意の文註
東京市赤坂區南町五丁目	一ヶ月 金二 半年分 金一圓二十 一年分 金二圓四十	△御注文は前金にて御申込下さい △御申込はなるべく振替のこと △郵券代用は一期増のこと
東京市赤坂區南町五丁目 發行所 株式會社 光明思想普及會 振替東京五五一九番 電話赤坂(45) 三三三八八二二	昭和十五年十一月十五日印刷納本 昭和十五年十二月一日發行	

# 谷口雅春最新刊名著選

處世の勝利者たらしめる力の源泉を與へる生命の書、即ち立身出世の秘法も、難病征服の道も、貧苦を越する道も、一家和樂の秘訣も、永遠に生き通す無限生命の實人生を知る方法も、日々々々光明生活法も下記専門書に具備す。希望の書より讀まれよ。

左の叢書は、常に所持し、一寸の時間を利用して光明輝く心で人生百事を處理して行くに最適也。特に各巻末には「甘露の法用」を附して護心の用となす。各書を交互に携帯して常住心を磨かれよ。

各書 甘露の法用 附 釘裝地無 各書

各書	甘露の法用
新刊 幸福生活への真理	哲學の實踐
把住と放行	調和の生活
辨道聴き書	生活に生きる宗教
永遠價値の生活學	ひかりの語録
日本の世界的使命	實相要約上巻
樂園奪還	實相要約下巻
生活化せる大乗佛敎	實相眞行義
常樂の實現	甘露の法雨講義
人生と戀愛その他	光明の生活法
新生活への出發	百事如意

携帯版叢書 全二十冊揃ふ (生命の實相の要處披露)

新刊本	新刊本	新刊本	新刊本	新刊本	新刊本	新刊本	新刊本	新刊本	新刊本
人生必ず勝つ	人間死んでも死なぬ	幸福讀本	慕進日本の心と力	慨世血の書	運命讀本	おはなし讀本	優良兒を作る	母・妻・娘の本	光明の健康法
六四頁	六四頁	六四頁	六四頁	六四頁	六四頁	六四頁	六四頁	六四頁	六四頁
五三頁	九三頁	二四頁	二九三頁	二四頁	二四頁	二四頁	二四頁	二四頁	二四頁
0.78	0.78	0.78	0.78	0.78	1.80	2.30	1.80	1.50	1.30
送10	送10	送10	送10	送10	送14	送14	送14	送14	送14

圖書説明書進呈

東京市赤坂區南町五番地

光明思想普及會

電話東京五五一九番

版出念記大三家の長生著春雅口谷

# 人生は

# 心で支配せよ

著者の秘稿  
茲に出版さる

四六列布装 二圓  
上製函入 廿錢  
四四八頁 送 14

本書は未だ『生命の真相』にも、その他本社発行の單行本、雜誌にも發表されてゐない谷口先生の秘稿である。人生百般の問題を支配して勝利、成功、健康に導く光明思想をホームズの行法に汲んで、『神観』上述の順序を支配して述べられたものである。神と人との關係より、一切を成就する心の法則を講々述べられ、『神観の行法』の順序階梯を三十項目に互つて、一ヶ月間日々實修出来るやう指導されてゐる。『生命の真相』の讀者は本書を得て、光明思想の發祥の因由を知り、神観の極意を得、愈々人生絶対必勝の極意を掌握するに到る。兎に角、本書の一頁なりと讀んで見られよ。巻を擱く能はずして、諸君の心は満たされ、開かれるを覺ゆる。人を救へる法、病を消去する法、事業の大成を期する法則等が學的に究はめられてゐて更に實踐力にまで推進される大偉著には、感激と讚歎のみなることを知るであらう。

## 禁酒禁煙報國

四一六  
二四六  
錢卅  
本書の偉力は人を救ひ、家庭に光を興へ、國を興す。心が幸福感に浸つてゐるならば、自然飲酒禁煙も喫煙も聞食禁も治る眞理と實例とを説く、この事實を見よ。

## 無門關の日本日的的解釋

本書により日本國體を闡明するために現れた金枝維華の秘書を知り、龍宮埋蔵の華嚴の秘義を聞かれよ。

坂本乃・坂赤・京東  
會及普想思明光  
九一五五五京東普振  
三二一一二八三坂赤話電

菊版上製  
函入 四四頁  
二圓八十錢  
送 14

秘義を聞かれよ。病氣、貧乏を超え、大智慧の發見ともなる大講義である。



Kodak Color Control Patches

Blue

Cyan

Green

Yellow

Red

Magenta

White

3/Color

Black

© Kodak, 2007 TM, Kodak



Kodak Gray Scale

C

Y

M

© Kodak, 2007 TM, Kodak

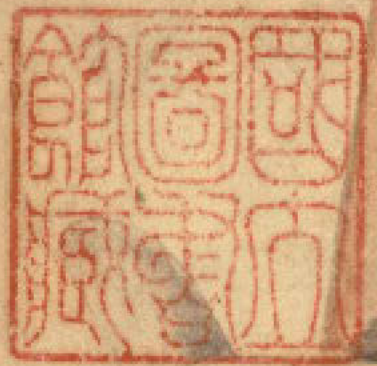
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

谷口雅春個人雜誌

行

雅春

雅54  
112



44-84

昭 16.1-10  
1105 改題 23号 行  
— 32号 —  
[ 90号 — 99号 ]



行  
正月號

明る  
鳥の姿  
には幸福が  
自づと集る。  
——(種巻)



谷口雅春著・四萬部突破の書

必勝への新發足

# 生命の實相

國家政治、哲學、經濟、醫學、家庭、教育、實業、軍事、宗教、心理學等一切を網羅して、凡ゆる方面に「生命の實相」をなぞし、この全書は、一冊の精神の力となつてゐる。生命の實相一冊をなぞし、人生の意義、生命の意義、實相の意義、發行部数は本書の價値を証明して餘りなし。人生の意義、生命の意義、實相の意義、發行部数は本書の價値を証明して餘りなし。人生の意義、生命の意義、實相の意義、發行部数は本書の價値を証明して餘りなし。

- ☆菊判豪華装 全十二巻 鳥の子極彩  
唯今第十巻迄完本 各册四六〇頁以上 一册一圓八十錢
- ☆人造羊皮装 全九巻 堅牢典雅  
菊半載型書型 地水火風空教行信證の巻 各册八〇〇頁以上 一册三圓
- ☆戦時廉價版 全十五巻 硬紙極彩  
四六判各册 四〇〇頁以上 一册一圓廿錢
- ☆黒布装 全十五巻 黒絹表紙  
四六判各册 四〇〇頁以上 一册一圓五十錢
- ☆豪華大聖典 殘部僅少 即刻申込者のみ入手可能  
各版共送料一册十四錢 外地十五錢 外國四十錢  
一巻三三三頁、全巻一册に纏めた大豪華本谷口先生御揮毫對御揮毫料五圓(合計定價三十五圓)五圓宛七分分割割可也 送料内地七十錢 外國實費

携帶版書 全廿冊	「生命の實相」の要處抜萃篇	各「甘霖の法雨」附・無地裝	一册 九十錢 送料六錢
幸福生活への真理	把住と放行	辨道聽き書	哲學の實踐
永遠價値の生活學	生活に生きる宗教	調和生	生活化せる大乘佛教
光明の生活法	新生活への出發	人生と戀愛その他	常樂の實現
樂園奪還	百事如意	ひかりの語錄	實相眞行義
實相要約上卷	實相要約下卷	甘露の法雨講義	日本の世界的使命

# 谷口雅春著重版好評書目

本日新體制版78本

- 左の六著揃ふ 各冊七十八錢 送一〇
- 一流の人妻子を作る 四六判 三四四頁
  - 人生必ず勝つ 四六判 三五八頁
  - 人間死んでも死なぬ 四六判 三九二頁
  - 幸福の本 四六判 四二四頁
  - 幸福 四六判 四二四頁
  - 福 四六判 四二四頁
  - 讀本 四六判 四二四頁
  - 讀本 四六判 四二四頁
  - 日本の心と力 四六判 四二四頁
  - 概世血の書 四六判 四六四頁

谷口先生の新聞書は愈々好評を重ねて、何れも十版を超ゆ、今後重版不可能の書多し、即刻入手して蔵されよ。何故斯く打てば響くが如く讀書子を引寄せるのであらうか、即ち一書は日本人の榮譽を高め、一書は宗教、科學の根本を生活に生かし、一本は人生苦の難道を易々と突破せしめ、或書は一家和樂の秘を説き、其書は立身の道を示し、又難病を癒えしめ生活の勝利者と化し、光明思想の眞髓を把握せしめるからである。下記より選び見よ。

日本新體制版は特に左著の内容が新體制下の祖國に緊急重要なを痛感し、茲に新本半價以下で奉仕出版す。多部数の出版もとより許されず、殘部日に減少す急據一掃を得て必讀されよ。贈答に最適。

- 人生は心で支配せよ 四六判 四四八頁 價二・二〇 送一四
- 無門關の日本的解釋 四〇四頁 價一・八〇 送一四
- 禁酒禁煙報國 四六判 一二四頁 價〇・三〇 送六
- 運命讀本 四六判 四五二頁 價一・八〇 送一四
- おはなし讀本 廣幅菊判 三四〇頁 價二・三〇 送一四
- 優良兒を作る 四六判 四八八頁 價一・八〇 送一四
- 幸福の哲學 菊 判 三六八頁 價一・六〇 送一四
- 法悅の力 四六判 四六三頁 價一・八〇 送一四
- 新佛教の發見 四六判 四五八頁 價一・三〇 送一四
- 超宗教を建つるまで 四六判 四三六頁 價一・六〇 送一四

東京市赤坂區赤坂 光思想普及會 振替五五五 東京九

## 編輯後記

○讀んで新筆のお慶び申上げます。紀元正に二千六百一年、年々新に、人も新に、愈々大々地々伸びて行くのみならず、その内と外とでございます。例よりも再々感く、今を生くること、日本人の今の「今」を生くることでございます。今「今」を指して、何の意味もなし。新しい「年」は、實に新しい「今」のこと、永遠に繋がる此の瞬間の「今」のこと、他なりません。日々是れ元日——吾ら日本人の生を方は、實にこれでございます。

○「行」新編第一號は、谷口先生「生き甲斐のための手紙」及び「新たに生れる」精神分析の第一の三篇でございす。夫々に新しい年に開かれたる新しい眞理の言葉のたいへん深く深く、切に心に打ちつくと、人々も固く息を止めるほどの眞理でございます。取りなさい、今後は、實にこれでございます。今後は、實にこれでございます。今後は、實にこれでございます。今後は、實にこれでございます。

○「行」新編第一號は、谷口先生「生き甲斐のための手紙」及び「新たに生れる」精神分析の第一の三篇でございす。夫々に新しい年に開かれたる新しい眞理の言葉のたいへん深く深く、切に心に打ちつくと、人々も固く息を止めるほどの眞理でございます。取りなさい、今後は、實にこれでございます。今後は、實にこれでございます。今後は、實にこれでございます。今後は、實にこれでございます。

定	價	注意の文	行
一ヶ月 金二 十	半年分 金一圓 二十	△御注文は前金にて御持込下さい △御持込はなるべく振替のこと △郵券代用は一割増のこと	昭和十五年十二月十五日印刷納本 昭和十六年一月一日發行 東京市豊島區長崎六丁目三ノ五 發行所 服部仁三郎 東京市小石川區諏訪町五六 印刷人 奈良直一 東京市小石川區諏訪町五六 印刷所 株式會社常磐印刷所
電話赤坂 (48) 三三三八八二二二一	振替東京五五五一九香	發行所 株式會社常磐印刷所	東京市赤坂區赤坂 光思想普及會

昭和五年三月四日第三種郵便物認可  
昭和十九年一月二十二日印刷  
（日本標準規格B列六號）  
（總発行部百九十四號）

神は靈なる故に人間も亦靈なり  
神は愛なる故に人間も亦愛なり  
神は勝つる故に人間も亦勝つる  
神は實なる故に人間も亦實なり  
神は眞理なる故に人間も亦眞理なり  
神は體なる故に人間も亦體なり  
神は心なる故に人間も亦心なり  
神は神なる故に人間も亦神なり

第五十輯 第二號

父よの出臨た終光に侍非る病は  
夢の推破せらるる故なり最初の病は  
近況 通誠 信  
此の世の國にありと此の世の國にありと此の世の國にありと



版洲滿・附引索密詳

實相の生命

# 實相の生命

偉大なる「生命の實相」を徹底して八巻に再編纂し、これに毎巻詳密なる索引を附して毎日命開拓による運命の他百段の人生問題解決の大道場たる

索引は六號三段書組、毎巻約千三百頁以上収録、生命の實相、大事無き事

（野愛導引の一巻（編纂））  
我々、一の方では人を助けようとは出来ぬ、二天

科學は必ずしも物質だけの記録に限らぬ、三聖

一は總て健康の集積、四聖  
一編纂現在因果經、五聖、舞臺

一を無限に生長させるは誠、六聖

一の光明化、七〇

一の調和・姉と調和す、八聖

一の調和・夫婦が調和すればそこが生長の家、二五

一の問題・或も未亡人の話、三〇

一の問題・夫婦調和し或る婦人の

全八巻・各巻三圓七十錢 送料三錢

各巻四百五十頁以上、裝釘特に美

首巻乾之卷目下發賣中

次巻 允之卷近日發賣、豫約受付中

乾之卷 神道篇等 靈之卷 基督教等  
兌之卷 聖靈篇等 坎之卷 女世篇等  
離之卷 教育篇等 艮之卷 經典篇等  
震之卷 樂行篇等 坤之卷 總說篇等

## 谷口雅春著

☆滿洲版五大名著

左記は何れも、日本では永久に發行されぬ。滿洲でも再版は不可能、買切れ、即時入手あれ！

### 養心健體法

四二〇頁  
三圓五十錢  
送料二十錢

### 新日本の心

四二〇頁  
三圓三十錢  
送料二十錢

### 大道無門

四〇四頁  
三圓七十錢  
送料二十錢

### 靜思集

四六六頁  
三圓七十錢  
送料二十錢

### 人物鍊成法

四一〇頁  
三圓五十錢  
送料二十錢

各書とも御註文は必ず下記へ  
日本の普及會では受付出来ませぬ

奉天 大町 市田 大谷 柳香 區道

滿洲光明思想普及會

奉天 大町 市田 大谷 柳香 區道

340

121

生命の實相

家の長生

# 「生命の實相」目次

はしがき

序 篇 七つの光明宣言の解説……………二一六

實相篇 光明の眞理（メタフィジカル）

ヒーリング講座……………一九一—四六

第一章 近代科學の空即是色の展開……………四二

第二章 「生長の家」の健康學……………七五

第三章 あらゆる人生苦の解決と實例……………七五

第四章 心の世界に於ける運命の形式……………二〇

第五章 生きた事實を語る……………二四二

第六章 愛と眞理によつて更生せよ……………二六六

第七章 「生長の家」の超生理學……………二九〇

第八章 「生長の家」の超藥物學……………三二六

第九章 無礙自在の「生命の本性」

を發揮せよ……………三六三

第十章 「生長の家」の神人論……………三〇一

第十一章 讀んで魂の歡ぶ話……………三八

第十二章 神への道しるべ……………三四二

第十三章 經濟問題の解決……………三七〇

第十四章 實生活に應用する自己暗示法……………三〇三

第十五章 心の根本的調律法……………三四四

第十六章 「神想觀」の實修法……………三四七

第十七章 生きまほしの生命……………四〇八

生活篇 「生長の家」の生き方……………一一—三四

(一) 朝の時間を生かせ……………四

(二) 期かに笑つて生きよ……………三三

(三) 日時計主義の生活……………三七

(四) ひさの生命の實相を禮拜せよ……………三〇

(五) 神の子の自覺に超入せよ……………三六

(六) 「今」を全力を出して戦ひなれ……………三七

(七) 背水の陣を布け……………三三

(八) 深切の生活を生きよ……………三四

(九) 常に心に善念を把持せよ……………三六

(十) わが心の王國を支配せよ……………三〇

(十一) 取越し苦勞する勿れ……………三三

(十二) 生長と平和と幸福は愛より

生ずる……………三三

(十三) 思ひ切りよく、押し強く、

勇敢に斷行せよ……………三三

(十四) 斷じて失敗を豫想せざる者は

終に勝つ……………三九

(十五) 共通的生命の歡喜のため働け……………三七

(十六) 艱難を光明化せよ……………三六

(十七) 天地の開ける音を聞け……………三三

(十八) 家庭生活を光明化せよ……………三三

教育篇 「生長の家」の教育法……………一—六

參考篇 心が肉體に及ぼす力……………一—六

參考篇 精神分析による心の研究……………一—六

聖詩篇 生長の家の歌……………一—六

靈感篇 智慧の言葉……………一—九

此の聖典「生命の實相」をお読みになり心に光明が輝いて來ましたら、生長の家本部と連絡を保つために機關雜誌「生長の家」の會員とおなり下さい。「生長の家」誌は此の聖典に説いた不朽の眞理を更に縱横に説いて繼續讀むに従つて眞理の把握を益々完全ならしめます。會員は遠隔にゐても靈波感應による神想觀直接指導を受ける特權があります。會員となるには生長の家半ヶ年分以上を前金で御購讀下されば好いのです。(月刊「生長の家」は一冊毎號八十頁三十錢一ヶ年三圓六十錢)

### 生命の實相

(非賣品)

(有縁の方に限り特に金四圓にて頒布す)

昭和六年十二月二十八日印刷納本  
昭和七年一月一日發行

(濟本納省務内)

兵庫縣武庫郡住吉村字八甲田六九〇

著作兼 發行人 谷口雅春

大阪市港區音羽町一丁目五番地

印刷人 小林爲兄

大阪市港區音羽町一丁目五番地

印刷所 有効社印刷所

兵庫縣武庫郡住吉村字八甲田六九〇

發行所 生長の家出版部

振替大阪一四一一八番



5965



集全典聖家の長生

# 相實の命生

卷一第

篇相實・篇說總

行發會及善想思明光京東



池田昌人氏寄贈本

われ振り返りて我に語る聲を見んとし、振り返り見れば七つの金の燈臺あり。また燈臺の間に人の子のごとき者ありて足まで着る、衣を着、胸に金の幣を束ね、その頭と脚裏とは白き布のごとき雪のごとき白く、その目は深の如く、その足は塵にて汚きたる輝ける真鍮のごとく、その唇は赤くの水の輝のごとし。その右の手に七つの星を持ちその口より圓形の利き劍出で、その舌は赤しく照る日のごとし。我これを見しとき其の足下に倒れて死にたる者の如くなれり。彼その右の手を我に授きて言ひ給ふ。「憐るな、我は最末なり、最後なり、活ける者なり。われ曾て死にたりしが、死よ、世々限りなく生く。また死と陰府との鍵を有てり。されば汝が見しことと今あることと、我に成らんとする事とを給せ。即ち汝が見しところの我が右の手にある七つの星と七つの金の燈臺との意義なり。七つの星は七つの教會の依にして、七つの燈臺は七つの教會なり。」

○黙示録第二章、十二節——二十節

『生命の實相』第一卷 目次

はしがき……………四

『七つの燈臺の點燈者』の神示……………三—四〇

總設置 七つの光明宣言の解説……………四—四〇

實相篇 光明の眞理……………四—四〇

第一章 近代科學の空即是色的展開……………四

第二章 『生長の家』の健康學……………五

第三章 あらゆる人生苦の解決と實例……………七

第四章 心の世界に於ける運命の形成……………二二

第五章 生きた事實を語る……………二五

第六章 愛と眞理によつて更生せよ……………二九

第七章 『生長の家』の超生理學……………三六

第八章 『生長の家』の超變物學……………三〇

第九章 無礙自在の『生命の本性』を發揮せよ……………三二

第十章 『生長の家』の神人論……………三三

第十一章 讀んで魂の歡ぶ話……………三四

第十二章 神への道しるべ……………三五

第十三章 經濟問題の解決……………三五

はしがり

「生長の家」とは單に私の家の名前ではない。生命實現の法則(無限生長の道)に隨つて生きる人々の家は、皆「生長の家」である。何故ならその家は生長するからである。家族の一人が「生長の家」の誌友となるとき、その人の屬する家庭全部が「生長の家」となるであらう。何故ならその家庭は生命の生長の法則に乗るからである。「生長の家」の生きる道は私が確めた道ではない。凡そ、宇宙に生命が發現する限り、そこに道があり、法則がある。この道こそ「生長の家」の生きる道である。「道」とは宇宙にミチ(道)として存するコトバ(生命の波動)であり、遍在する大生命の創化の原理であるから、それは如何なる宗派とも衝突しないで、また如何なる宗派の人々と争も踏み行はねばならぬ生活の原理である。かくの如き生活の原理を私は諸君に代つてインスピレートされて發表するのである——言ひ換へれば斯くの如き役割を私は大生命から振り當てられたに過ぎない。その發表機關が月刊雑誌「生長の家」である。「生長の家」に發表される思想のインスピレーションの根元が本當の「生長の家本部」であつて、それは神界即ち「實相の世界」にある。假りにその地上的執務の中心を「生長の家」本部と名づけ、出版部を本部に置いて此の雑誌の執筆發行等の事務をとるのである。道の發表が書籍だけに限られてゐるのは不足で違

つであるが、誌友の努力で本部に追々時間と維持費とに餘裕が出来てきたら地方にも講演會や講習會も開くやうにし、更に愈々生長して生命の法則を教へる健康院や學校をも建設したい。「生長の家」の説く道は机上の空論ではなく生命の法則であるから、道即ち生活であるのである。この法則を自分自身の生活に生きたとき「生長の家の生き方」として展開し、他人の生活に及ぼすとき隣人への愛行となる。こゝに一つの道は展開して生活となり更に展開して愛行となるのである。愛行のうちに生活あり、生活のうちに道あり、道と生活と愛行とは三位にして一體である。道が生活の上に悟られるときそれは救ひの相をもつて顯はれメタフィジカル・ヒーリングとなつて、健康環境性格の改善等をそのづから成就する。これは「心の法則」の實證であつて物質的治療法に對する超物質的治療法である。生命の創化力が完全に發現すれば健康となり、平和となり、豊饒なる供給となり、個人及び家庭社會等の生長となるのであるが、生命の創化力が完全に發現しないとき病氣、窮乏、その他凡ゆる人生苦となるのである。何が生命の創化力を妨げるかと云へば、顛倒妄想(自己を無限力ある佛性、神我、靈又は生命と自覺せず、自己を物又は肉體と認る妄念)である。顛倒妄想は一つの逆の思念(波動)であるから、生命の創化力(生々の波動)を妨げる。顛倒妄想を去るとき、この妨げは除かれ、生命の創化力はおのづから發現して病氣は消滅し、法界無限の供給はその人の必要に従つて流れ入り、凡ゆる人生苦は自滅するのである。

りの靈界通信によりますと「あなた方に果して會得し得るかどうか知れないが、あなた方の有する書物——印刷し、裝幀してあるドゥッシリ重い書物は靈界より觀れば一つの光體である。書物の生命はその光りの價値できまる」と云つてゐるのであります。これによればどんな部厚い書物でもたゞの紙屑にすぎないものもあれば、片々たる冊子でも神佛の護符同様靈光燦然たるものがある筈であります。しかもその靈光にも色いろの種類があるので、讀まずにたゞ何に置くだけでも吾々の心に悪影響を與へるもの、良影響を與へるもの等様々ある筈です。總じて明るい言葉を書いた書物より發する光は靈體を呼ぶのであります。こんな譯で、常に一冊宛携帶して、書物そのもの、明るい眞理の波動により、その人の人觀を明るくし、心を愉快にし、身邊に善靈を呼び、病靈及び病的精神波動を驅逐して頂きたいために五年間執筆の「生長の家」誌を系統だて、編纂し全集にしたのが本書であります。尙、本全集を縮刷して携帶至便の總羊皮表紙三方金の装幀型に裝幀した豪華版全集（地・空・火・風・水、全五巻）がありますから、御自分の携帶用に、又は悲觀したり病氣になつたりしてゐられる方があれば是非これを見舞に惹上げて頂きたいのであります。

生命の實相（第一巻完）

昭和十年一月二十日印刷納本  
昭和十年一月二十五日發行

生命の實相（全集豫約）

第一巻（定價一圓五十錢 送料・内地十錢）

録登權版

著者 藤 春  
發行者 藤 身  
印刷所 小 川 新 七

東京市澁谷區櫻田三丁目七十六番地 谷 口 雅 春  
東京市澁谷區櫻田三丁目七十六番地 藤 身  
大阪市西區京町堀上通四丁目九番地 小 川 新 七  
大阪市西區京町堀上通四丁目九番地 生長の家 印刷 部

發行所

東京市澁谷區櫻田三丁目七十六番地  
光明思想普及會  
電話青山四四三一番  
振替東京五五五一九番

特263  
327

谷口雅春著

生長の家  
聖典

生命の實相

地の巻

光明思想普及會發行

# 「生命の實相」地の巻目次

はしがき

「七つの燈臺の點燈者」の神示

總設篇 七つの光明宣言…………… 1—20

實相篇 光明の眞理…………… 21—49

第一章 近代科學の空即是色の展開……………	3	第十章 「生長の家」の神人論……………	267
第二章 「生長の家」の健康學……………	5	第十一章 讀んで魂の歡ぶ話……………	283
第三章 あらゆる人生苦の解決と實例……………	7	第十二章 神への道しるべ……………	305
第四章 心の世界に於ける運命の形成……………	23	第十三章 經濟問題の解決……………	327
第五章 生きた事實を語る……………	25	第十四章 實生活に應用する自己暗示法……………	347
第六章 愛と眞理によつて更生せよ……………	29	第十五章 心の根本的調律法……………	368
第七章 「生長の家」の超生理學……………	31	第十六章 「神樂觀」の實修法……………	381
第八章 「生長の家」の超藥物學……………	33	第十七章 生きとほしの生命……………	396
第九章 無礙自在の「生命の本性」を發			

## 生活篇 「生長の家」の生き方…………… 49—76

(一) 朝の時間を生かせ……………	49	(十二) 生長と平和と幸福は愛より生ずる……………	628
(二) 朗かに笑つて生きよ……………	52	(十三) 思ひ切りよく、押し強く、勇敢に斷行せよ……………	636
(三) 日時計主義の生活……………	53	(十四) 斷じて失敗を豫想せざる者は終に勝つ……………	653
(四) ひとの生命の實相を禮拜せよ……………	54	(十五) 共通的生命の歡喜のため働け……………	672
(五) 神の子の自覺に超入せよ……………	58	(十六) 艱難を光明化せよ……………	690
(六) 「今」を全力を出して戦ひとれ……………	59	(十七) 天地の開ける音を聞け……………	706
(七) 背水の陣を布け……………	59	(十八) 家庭生活を光明化せよ……………	725
(八) 深切の生活を生きよ……………	60		
(九) 常に心に善念を把持せよ……………	63		
(十) わが心の王國を支配せよ……………	64		
(十一) 取越し苦勞する勿れ……………	65		

## 教育篇 「生長の家」の教育法…………… 77—86

此の聖典『生命の實相』をお読みになり心に光明が輝いて來ましたら、續いて『生命の實相』他の巻をお読みになり同時に生長の家本部と連絡を保つために機關雜誌『生長の家』の誌友とおなり下さい。『生長の家』誌は此の聖典に説いた不朽の眞理を更に縱横に説いて繼續讀むに従つて眞理の把握を益々完全ならしめます。誌友となるには『生長の家』壹ヶ年分以上を前金で御購讀下されば好いのです。誌友は本部に於て神想觀實修、その他、谷口先生の直接御指導を受ける事が出來ます。(月刊『生長の家』は毎號百十數頁一ヶ年三圓六十錢)

『生命の實相』地の巻(事變版)

定價 金貳圓五拾錢 (送料十四錢)

昭和十三年三月五日 事變版印刷  
昭和十三年三月二十日 同 發行

(濟本納省務内)

東京市澁谷區穩田三丁目七六  
著作者 谷口 雅 春  
東京市豊島區千川町三ノ四三三六  
發行者 服部 仁三 郎  
東京市小石川區白山御殿町一八  
印刷人 大 居 倉 之 助  
東京市小石川區白山御殿町一八  
印刷所 大文堂合名會社

發行所

東京市赤坂區檜町五番地

株式會社

光明思想普及會

電話赤坂(48)三六三一—三番  
振替東京五五五一九番

(所 本 製 牧)

集全典聖家の長生

# 相 實 の 命 生

卷 一 第 一 冊

篇相實・篇説總

生 命 の 實 相  
 一 卷 第 一 冊  
 總 説 篇  
 實 相 篇



われ振り返りて我に語る聲を見んとし、振り返り見れば七つの金の燈臺あり。また燈臺の間に人の子のごとき者ありて足まで垂るし衣を著、胸に金の帯を束ね、その頭と頸は白き毛のごとき雪のごとき白く、その目は深の如く、その足は裸にて焼きたる輝ける眞鍮のごとく、その聲は衆くの木の聲のごとし。その右の手に七つの星を持ちその口より兩刃の利き劍出で、その顔は烈しく照る日のごとし。我これを見しとき其の足下に倒れて死にたる者の如くなれり。彼その右の手を我に按きて言ひ給ふ。「憫るな、我は最先なり、最後なり、活ける者なり。われ曾て死にたりしが、視よ、世々限りなく生く。また死と陰府との鍵を有てり。されば汝が見しことと今あることと、彼に成らんとする事とを録せ。即ち汝が見しところの我が右の手にある七つの星と七つの金の燈臺との意義なり。七つの星は七つの教會の侯にして、七つの燈臺は七つの教會なり。」

○「黙示録」第一章、十二節——二十節

### 『生命の實相』第一卷 目次

はしがき……………四

『七つの燈臺の點燈者』の神示……………六

總説篇 七つの光明宣言の解説……………三—四〇

實相篇 光明の眞理……………四—四六

第一章 近代科學の空即是色的展開……………四〇

第二章 『生長の家』の健康學……………五〇

第三章 あらゆる人生苦の解決と實例……………五七

第四章 心の世界に於ける運命の形成……………六三

第五章 生きた事實を語る……………七一

第六章 愛と眞理によつて更生せよ……………七六

第七章 『生長の家』の超生理學……………八四

第八章 『生長の家』の超藥物學……………九〇

第九章 無礙自在の『生命の本性』を發揮せよ……………九七

第十章 『生長の家』の神人論……………一〇三

第十一章 讀んで魂の歌ぶ話……………一〇九

第十二章 神への道しるべ……………一一五

第十三章 經濟問題の解決……………一二四

## はしがり

「生長の家」とは單に私の家の名前ではない。生命顕現の法則(無限生長の道)に隨つて生きる人々の家々は、皆「生長の家」である。何故ならその家は生長するからである。家族の一人が「生長の家」の誌友となるとき、その人の屬する家庭全部が「生長の家」となるであらう。何故ならその家庭は生命の生長の法則に乗るからである。「生長の家」の生きる道は私が導いた道ではない。凡そ、宇宙に生命が發現する限り、そこに道があり、法則がある。この道こそ「生長の家」の生きる道である。「道」とは宇宙にミチ(満ち)て存するコトバ(生命の波動)であり、遍在する大生命の創化の原理であるから、それは如何なる宗派とも衝突しないで、また如何なる宗派の人々と障も踏み行はねばならぬ生活の原理である。かくの如き生活の原理を私は諸君に代つてインスピレートされて發表するのである——言ひ換へれば斯くの如き役割を私は大生命から振り當てられたに過ぎない。その發表機關が月刊雜誌「生長の家」である。「生長の家」に發表される思想のインスピレーションの根元が本當の「生長の家本部」であつて、それは神界即ち「實相の世界」にある。假りにその地上的執務の中心を「生長の家」本部と名づけ、出版部を本部に置いて此の雜誌の執筆發行等の事務をとるのである。道の發表が書籍だけに限られてゐるのは不足で遺

憾であるが、誌友の努力で本部に追々時間と維持費とに餘裕が出来てきたら地方にも講演會や講習會も開くやうにし、更に愈々生長して生命の法則を教へる健康院や學校をも建設したい。「生長の家」の説く道は机上の空論ではなく生命の法則であるから、道即ち生活であるのである。この法則を自分自身の生活に生きるとき「生長の家の生き方」として展開し、他人の生活に及ぼすとき隣人への愛行となる。こゝに一つの道は展開して生活となり更に展開して愛行となるのである。愛行のうち生活あり、生活のうちに道あり、道と生活と愛行とは三位にして一體である。道が生活の上に悟られるときそれは救ひの相をもつて顯はれメタフィジカル・ヒーリングとなつて、健康境遇性格の改善等をあつちから成就する。これは「心の法則」の實證であつて物質的治療法に對する超物質的治療法である。生命の創化力が完全に發現すれば健康となり、平和となり、豊富なる供給となり、個人及び家庭社會等の生長となるのであるが、生命の創化力が完全に發現しないとき病氣、窮乏、その他凡ゆる人生苦となるのである。何が生命の創化力を妨げるかと云へば、顛倒妄想(自己を無限力ある佛性、神我、靈又は生命と自覺せず、自己を物又は肉體と觀る妄念)である。顛倒妄想は一つの逆の思念(波動)であるから、生命の創化力(生々の波動)を妨げる。顛倒妄想を去るとき、この妨げは除かれ、生命の創化力はおのづから發現して病氣は消滅し、法界無限の供給はその人の必要に従つて流れ入り、凡ゆる人生苦は自滅するのである。

りの靈界通信によりますと「あなた方に果して會得し得るかどうか知れないが、あなた方の有する書物——印刷し、装頓してあるドツシ重い書物は靈界より觀れば一つの光體である。書物の生命はその光りの價値できまる。」と云つてゐるのであります。これによればどんな部厚い書物でもたゞの紙屑にすぎないものもあれば、片々たる冊子でも神佛の護符同様靈光燦然たるものがある筈であります。しかもその靈光にも色いろの種類があるので、讀まずにたゞ側に置くだけでも吾々の心に悪影響を與へるもの、良影響を與へるもの等様々ある譯です。總じて明るい言葉を書いた書物より發する光は善靈を呼び暗い言葉を書いた書物より發する光は惡靈を呼ぶのであります。こんな譯で、常に一冊宛携帯して、書物そのもの、明るい真理の波動により、その人の生觀を明るくし、心を愉快にし、身邊に善靈を呼び、病靈及び病的精神波動を驅逐して頂きたいために五年間執筆の「生長の家」誌を系統だてて編纂し全集にしたのが本書であります。尚、本全集を縮刷して携帯至便の綿羊皮表紙三方金の聖典型に装頓した豪華版全集(地・空・火・風・水、全五卷)がありますから、御自分の携帯用に、又は懸觀したり病氣になつたりしてゐられる方があれば是非これを見舞に差上げて頂きたいのであります。

生命の實相(第一卷完)

「生長の家」誌友となるには

誌友となるには月刊「生長の家」一箇年分(送料共三圓六十錢)以上の豫約購讀を光明思想普及會宛御申込み下さるだけで宜しいのです。誌友は茲に谷口先生の月々の新執筆の眞言に觸れ得、また本部三階講堂にて毎朝午前八時よりテキスト「生命の實相」による淨心の講義・生長の家独自の「神思想」實修、その他思想・性格・健康・經濟・環境等一切の學義に直接の御指導を受けることが出来ます。他に何の義務もありません。左記に就いて御了知下さい。

尙全國各地に誌友相受會あり、御照會次第お知らせ致します。  
 本部會時間 毎日午前八時より午後四時迄。(但し月曜午後・四大節は休み)東京市赤坂區榎町四番地生長の家本部(市電乃木坂下車)、教化部・婦人部(本部二階)教育部(本部三階)にて擔任講師が面會致します。  
 本部誌友會 毎日曜日前九時より正午迄。會費十錢。卷末廣告御覽下さい。

録登増規

昭和十四年九月五日 印刷部  
 昭和十四年九月十日 發行

生命の實相(第一卷)

臨時廉價版

定作一圓二十錢(送料)

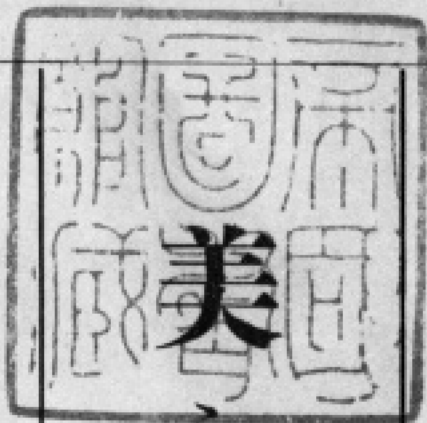
著作者 谷口雅春

發行者 光明思想普及會

印刷所 生長の家印刷部

發行所 光明思想普及會

特208  
838



谷口雅春著

しき  
生活

東京 光明思想普及會藏版



# 谷口雅春氏著作目録

(送料は補て内地送料です。「生命の真相」及び「各書内容説明書」は、發行所宛郵便で下さい。)

日本新體制版 憾世血の書	日本新體制版 人生必ず勝つ	日本新體制版 幸福讀本	日本新體制版 人間死んで死なぬ	日本新體制版 續人間死でんも死なぬ	新百事如意	光明の生活法	光明の健康法
四六判送 四六八頁 〇七八十	四六判送 四六八頁 〇七八十	四六判送 四六八頁 〇七八十	四六判送 四六八頁 〇七八十	四六判送 四六八頁 〇七八十	四六判送 四六八頁 〇七八十	四六判送 四六八頁 〇七八十	四六判送 四六八頁 〇七八十
個人國家の無 限伸張の根本 方途はこれ	人生必勝の原 理は？ 斯くて人 限力を發揮す る道を見よ！	人生必勝の原 理は？ 斯くて人 限力を發揮す る道を見よ！	人間永遠不死 の真相を解け る一切の悲人 間は、この消 えた。人間の 實體を把め、	人間の消 えた。人間の 實體を把め、	ホムズの百 事如意の思想 體系の名譯補 註	人生に學校に 輝く優秀者を つくる道。天 分成績健康の 伸びる道。青 少年必讀の著	人生に學校に 輝く優秀者を つくる道。天 分成績健康の 伸びる道。青 少年必讀の著
人を作る教育	光明道中記	百事如意	戰線消息	幸福の哲學	法悦の力	一の人・妻・子	優良兒を作る
四六判送 四八〇頁 一〇三〇	四六判送 四八〇頁 一〇三〇	四六判送 四八〇頁 一〇三〇	四六判送 四八〇頁 一〇三〇	四六判送 四八〇頁 一〇三〇	四六判送 四八〇頁 一〇三〇	四六判送 四八〇頁 一〇三〇	四六判送 四八〇頁 一〇三〇
萬人喜び伸び る教育法。受 験必備の書。	幸福のみの目 録！ 斯くて人 は常に新し。	人生必勝の道 は？ 一洗人の 官能に應け！	無門日本信仰を 天皇信仰を 無門日本信仰を 天皇信仰を	無門日本信仰を 天皇信仰を 無門日本信仰を 天皇信仰を	無門日本信仰を 天皇信仰を 無門日本信仰を 天皇信仰を	無門日本信仰を 天皇信仰を 無門日本信仰を 天皇信仰を	無門日本信仰を 天皇信仰を 無門日本信仰を 天皇信仰を

光の東 人生讀本	力の東 向上讀本	愛の東 女性讀本	母・妻・娘の本	生 人造羊皮版	命 菊 裝 版	の 黒布裝版	實 戰時廉價版	相 豪華聖典版
四六判送 三三六頁 一〇三〇	四六判送 三三六頁 一〇三〇	四六判送 三三六頁 一〇三〇	四六判送 三三六頁 一〇三〇	四六判送 三三六頁 一〇三〇	四六判送 三三六頁 一〇三〇	四六判送 三三六頁 一〇三〇	四六判送 三三六頁 一〇三〇	四六判送 三三六頁 一〇三〇
人生に學校に 輝く優秀者を つくる道。天 分成績健康の 伸びる道。青 少年必讀の著	人生に學校に 輝く優秀者を つくる道。天 分成績健康の 伸びる道。青 少年必讀の著	人生に學校に 輝く優秀者を つくる道。天 分成績健康の 伸びる道。青 少年必讀の著	人生に學校に 輝く優秀者を つくる道。天 分成績健康の 伸びる道。青 少年必讀の著	人生に學校に 輝く優秀者を つくる道。天 分成績健康の 伸びる道。青 少年必讀の著	人生に學校に 輝く優秀者を つくる道。天 分成績健康の 伸びる道。青 少年必讀の著	人生に學校に 輝く優秀者を つくる道。天 分成績健康の 伸びる道。青 少年必讀の著	人生に學校に 輝く優秀者を つくる道。天 分成績健康の 伸びる道。青 少年必讀の著	人生に學校に 輝く優秀者を つくる道。天 分成績健康の 伸びる道。青 少年必讀の著
運命の本	新佛教の發見	聖 甘露の法雨	聖 天使の言葉	生長の家叢書	光明叢書	いのち文庫	成人教育講座	豪華聖典版
四六判送 四八〇頁 一〇三〇	四六判送 四八〇頁 一〇三〇	四六判送 四八〇頁 一〇三〇	四六判送 四八〇頁 一〇三〇	四六判送 四八〇頁 一〇三〇	四六判送 四八〇頁 一〇三〇	四六判送 四八〇頁 一〇三〇	四六判送 四八〇頁 一〇三〇	四六判送 四八〇頁 一〇三〇
人生に學校に 輝く優秀者を つくる道。天 分成績健康の 伸びる道。青 少年必讀の著	人生に學校に 輝く優秀者を つくる道。天 分成績健康の 伸びる道。青 少年必讀の著	人生に學校に 輝く優秀者を つくる道。天 分成績健康の 伸びる道。青 少年必讀の著	人生に學校に 輝く優秀者を つくる道。天 分成績健康の 伸びる道。青 少年必讀の著	人生に學校に 輝く優秀者を つくる道。天 分成績健康の 伸びる道。青 少年必讀の著	人生に學校に 輝く優秀者を つくる道。天 分成績健康の 伸びる道。青 少年必讀の著	人生に學校に 輝く優秀者を つくる道。天 分成績健康の 伸びる道。青 少年必讀の著	人生に學校に 輝く優秀者を つくる道。天 分成績健康の 伸びる道。青 少年必讀の著	人生に學校に 輝く優秀者を つくる道。天 分成績健康の 伸びる道。青 少年必讀の著

## 發行所

東京市赤坂區榎町五番地

株式會社

光明思想普及會 (振替東京) 五五五一九

「生長の家」誌友となるには

誌友となるには月刊「生長の家」一箇年分(送料共三圓六十錢)以上の預約購讀を光明思想普及會宛御申込み下さるだけで宜しいのです。誌友は致に谷日先生の月々の新執筆の眞實に觸れ得、また本部三階講堂にて毎朝午前八時よりアキマツト「生命の實相」による淨心の講義・生長の家独自の「神恩觀」實修、その他思想・性格・健康・經濟・環境等一切の疑義に直接の御指導を受けることが出来ます。他に何の義務もありません。左記に就いて御了知下さい。

尚全國各地に誌友相愛會あり、御照會次第お知らせ致します。

本部面會時間 毎日午前八時より午後四時迄。八年末午頭の數日間の他は無休。東京市赤坂區榎町五番地生長の家本部(市電乃木坂下車)、教化部・婦人部

(本部二階) 教育部(本部三階)にて擔任講師が面會致します。

本部誌友會 毎日曜日午前九時より正午迄。會費十錢。

版權登錄

昭和十五年十二月廿日 印刷  
昭和十五年十二月廿五日 發行

美しき生活

定價二圓二十錢(送料別)

著者 谷口 雅春

發行者 東京市赤坂區榎町五番地 株式會社 光明思想普及會

印刷者 東京市赤坂區榎町三丁目七六 小川 喜弘

東京市赤坂區榎町五番地 株式會社 光明思想普及會  
電話東京五五五一九番

(純成本製)

谷口雅春著

生長の家  
聖典

生命の實相

地の巻

光明思想普及會發行



# 「生命の實相」地の巻目次

はしがき

「七つの燈臺の點燈者」の神示

總設篇 七つの光明宣言

1-20

實相篇 光明の眞理

四一-四九

- 第一章 近代科學の空即是色の展開…………… 四
- 第二章 「生長の家」の健康學…………… 五
- 第三章 あらゆる人生苦の解決と實例七
- 第四章 心の世界に於ける運命の形成二三
- 第五章 生きた事實を語る…………… 一四
- 第六章 愛と眞理によつて更生せよ…………… 一六
- 第七章 「生長の家」の超生理學…………… 一九
- 第八章 「生長の家」の超藥物學…………… 二〇
- 第九章 無礙自在の「生命の本性」を發
- 第十章 「生長の家」の神人論…………… 二七
- 第十一章 讀んで魂の歡ぶ話…………… 三三
- 第十二章 神への道しるべ…………… 三四
- 第十三章 經濟問題の解決…………… 三七
- 第十四章 實生活に應用する自己暗示法…………… 四〇
- 第十五章 心の根本的調律法…………… 四六
- 第十六章 「神想觀」の實修法…………… 四八
- 第十七章 生きとほしの生命…………… 四九

## 生活篇 「生長の家」の生き方

四九-五八

- (一) 朝の時間を生かせ…………… 四八
- (二) 朗かに笑つて生きよ…………… 五六
- (三) 日時計主義の生活…………… 五二
- (四) ひとの生命の實相を禮拜せよ…………… 五四
- (五) 神の子の自覺に超人せよ…………… 五八
- (六) 「今」を全力を出して戦ひとれ…………… 五二
- (七) 背水の陣を布け…………… 五七
- (八) 深切の生活を生きよ…………… 五八
- (九) 常に心に善念を把持せよ…………… 五三
- (十) わが心の王國を支配せよ…………… 六四
- (十一) 取越し苦勞する勿れ…………… 六五
- (十二) 生長と平和と幸福は愛より生ずる…………… 六八
- (十三) 思ひ切りよく、押し強く、勇敢に斷行せよ…………… 六六
- (十四) 斷じて失敗を豫想せざる者は終に勝つ…………… 六五
- (十五) 共通的生命の歡喜のため働け…………… 六二
- (十六) 艱難を光明化せよ…………… 六〇
- (十七) 天地の開ける音を聞け…………… 七〇
- (十八) 家庭生活を光明化せよ…………… 七五

## 教育篇 「生長の家」の教育法

七九-八五



○嘗て生長の家出版部の向ひに洗濯屋があつて、その主人がランチウ(金魚の一種)を飼ふのに妙を得てゐた。三尺四方位のセメント製の容器が二つあつてその中にランチウを放養してゐた。去年の仔魚が今年は大人になつて産卵した。それから孵化したまだ蚊の幼蟲のやうに小さなその仔魚は一方の容器に入れられ、親魚はもう一方の容器に入れられてゐた。或る日、主人は夜店で身の丈五分許りのランチウの一年仔を十尾程買ひ足して、二つの容器に半數づゝ分けて放養した。仔魚の容器へ入れられた新參の一年仔は、古參の一層小さい蚊の幼蟲のやうな仔魚を食べてしまつて、あとは誰も自分達の生活を脅かすものがないので悠々と泳いでゐた。親魚の容器へ入れられた新參の一年仔は、始終、古參の親ランチウに逐ひ廻されて、一分時と雖も心安まるひまもなく始終恐怖を感じて逃げ惑ひながら生活してゐた。新參の一年仔がそこへ買はれて來てから二ヶ月たつた。親ランチウに逐ひまはされ通して始終恐怖しながら戦々兢兢々として生活してゐた新參の一年仔は、五尾が五尾ともその二ヶ月間に殆ど大きくならなかつたが、誰も彼らの生活を脅かすものゝない一方の容器の仔魚は五尾が五尾とも二倍の大きさに生長してゐた。飼料、換水その他の手入は兩容器とも同様であつたから、斯くの如き發育の差を生じたのは、恐怖心の有無によるのであつた。親に追ひ廻されなければ大きく伸び得るものを、親の過度の看視で正しく伸びない少年少女は此の金魚の儂れさにも似てゐる。

此の聖典『生命の實相』をお讀みになり心に光明が輝いて來ましたら、續いて『生命の實相』他の巻をお讀みになり同時に生長の家本部と連絡を保つために機關雜誌『生長の家』の誌友とおなり下さい。『生長の家』誌は此の聖典に説いた不朽の眞理を更に縱横に説いて繼續讀むに従つて眞理の把握を益々完全ならしめます。誌友となるには『生長の家』壹ヶ年分以上を前金で御購讀下されば好いのです。誌友は本部に於て神聖觀實修、その他、谷口先生の直接御指導を受ける事が出來ます。(月刊『生長の家』は毎號百餘頁・一ヶ年三圓六十錢)

『生命の實相』 地の巻 (人造洋皮版)  
定價金 參圓 (送料十四錢)

昭和十年十月一日初版發行  
昭和十四年十一月十五日第六版人造洋皮裝印刷  
昭和十四年十一月二十日同發行

(濟本納省務内)  
東京市澁谷區穩田三丁目七六 谷口雅春 著作者  
東京市赤坂區榎町五番地 光明思想普及會 發行者  
東京市小石川區白山御殿町一八 大文堂合名會社 印刷所

發行所 東京市赤坂區榎町五番地  
光明思想普及會  
電話赤坂(48)三八二二三番  
振替東京五五五一九番

(所本製牧)

Published By The Kōmyōshisō-Fukyūkai, Tōkyō, Japan.

持231  
697

【証拠14】

相 實 の 命 生



卷 一 第

篇行觀・篇相實・篇說總



438



版藏 會及普想思明光 京東

## 凡 例

一、本菊判装「生命の真相」は、既刊四六判全集・及び菊牛裁判全集とは別に、所謂明窓淨机の下に添附いた感でゆつたり味讀し得る全集をとの多數読友の希望に副はん爲、紙面を大きくし、活字の鮮明を期して、體裁に内容に雰圍氣の更まる思ひあらしむるやう、現下諸統制中、可能の最大限の良質材料を蒐め、元帝展審査員山根八春氏に委嘱し、眞に水久の淨机用・愛蔵用に相應しき豪華装幀を以つて入念調製刊行されたるものにして、毎月一回一冊宛、一先づ全十二冊として完結し、其後著者の新たに執筆せる全部を増補して向後、全集としての完璧を期する筈である。

一、既刊の「生命の真相大聖典」又はその縮刷菊判聖典所蔵者の爲には、新丁と共に、特に大聖典の丁附を併存して、所蔵聖典との照合その他に便した。各頁の下隅に「大聖典」等と横文字數字を以て示したるが、その大聖典の丁數である。

一、既刊の大聖典又はその菊判縮刷を所持の方は本全集の第八巻以後の配本を受くることによつて、著者の新しき執筆に觸れることが出来るであらう。

一、本全集表紙繪は灼爛開花の牡丹に戯れ遊ぶ唐獅子を配して、大調和心を象徴した。見返の波繪は金塊集中總倉右大臣の「大海の磯もとゞろに寄する波われてくだけて散るかも」の雄大豪壯の大自然の心、行雲流水、現象無等の眞理を象徴化したものである。

# 「生命の真相」 第一卷 目次

総説 七つの光明宣言……………	1—16
総説 「七つの光明宣言」の解説……………	17—24
真相篇 光明の眞理……………	25—30
第一章 近代科學の空即是色的展開……………	31—38
第二章 「生長の家」の健康學……………	39—46
第三章 凡ゆる人生苦の解決と實例……………	47—54
第四章 心の世界に於ける運命の形成……………	55—62
第五章 生きた事實を語る……………	63—70
第六章 愛と眞理によつて更生せよ……………	71—78
第七章 「生長の家」の超生理學……………	79—86
第八章 「生長の家」の超藥物學……………	87—94

第九章 無礙自在の「生命の本性」を發揮せよ……………	95—102
第十章 生長の家の神人論……………	103—110
第十一章 讀んで魂の歡ぶ話……………	111—118
第十二章 神への道しるべ……………	119—126
第十三章 經濟問題の解決……………	127—134
第十四章 實生活に應用する自己暗示法……………	135—142
第十五章 心の根本的調律法……………	143—150
第十六章 「神想觀」の實修法……………	151—158
第十七章 生きとほしの生命……………	159—166
眞行篇 神想觀實修本義……………	167—174
第一章 無限智慧を感受する道……………	175—182
第二章 無限生命に汲む道……………	183—190
第三章 無限供給を受くる道……………	191—198
第四章 神想觀の助業としての感謝行……………	199—206

「生命の真相」第一巻(完)

昭和四年五月十五日印刷  
昭和四年五月二十日發行

生命の真相 第一巻

定價一圓八十錢(送料二十二錢)

著 者  
有 所

著 者 谷 口 雅 春

發行者 株式会社 光明思想普及會

代表者 服部仁三郎

印刷所 共同印刷株式會社

製本所 收 製 本 所

裝幀者 山 根 八 春

發行所

株式会社

光明思想普及會

眞理が一つの經典にのみ書かれてゐると思ふのは偏つた考へである。故には或る特定の宗教でないと思ふべきであらう。若し或る一定の宗教でないと思はれないと思ふのであれば、其の宗教に屬しない何種ともいふ人間を救ふ神が必ず出て来るだらう。哲人は一本の草花にも眞理を見出し、動物者は星の圓きにも眞理の顯示を聞く。かく眞理は草花や星の圓きすら照つてゐるのに、或る一つの經典以外の經典には眞理がないと思ふ弊はない。「生命の真相」はあらゆる宗教の眞理に救ひの眞理を見出し、障礙を却つて生々と生かすのである。

東京市本郷區神町五番地

電話 赤坂(株) 五三三三  
五三三三  
五三三三  
五三三三  
五三三三